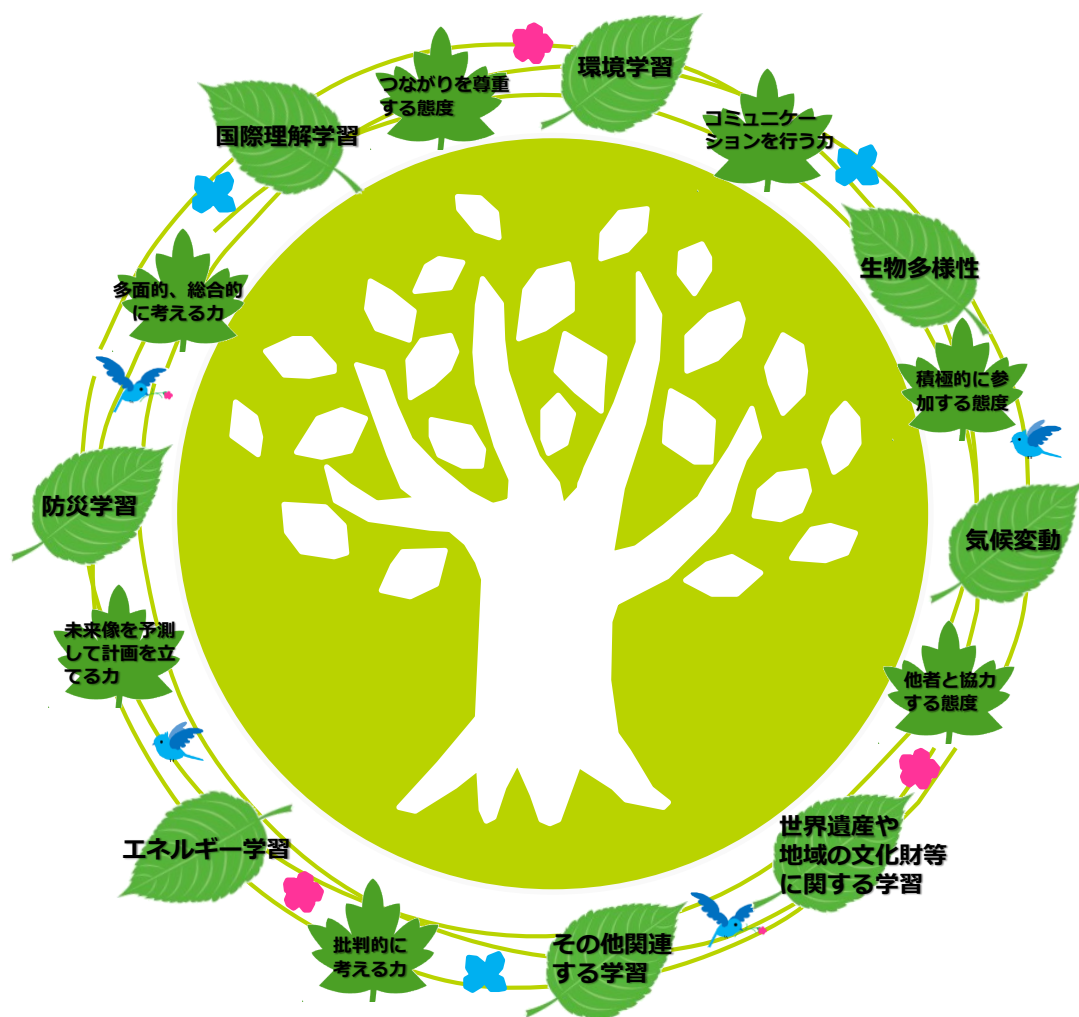


文部科学省平成26年度ユネスコ活動費補助金
グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業
「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム事業」

第三者評価報告書



[illegible]

ESD in 三重 2014

ESD in 三重 2014

ESD in 三重 2014

ESD in 三重 2014

ESD in 三重 2014

ESD in 三重 2014

ESD in 三重 2014

ESD in 三重 2014

ESD in 三重 2014

ESD in 三重 2014

ESD in 三重 2014

目 次

はじめに	1
1. 文部科学省のグローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業	
「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム事業」概要	2～5
2. 「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム事業」運営・評価委員会報告	6～25
資料 1. 「ESD in 三重 2014」報告書	26～29
Report of “ESD in Mie 2014”	30～33
資料 2. 『「ESD in 三重 2014」国際会議』報告書	34～35
Report of “ESD in Mie 2014” International Conference	36～37
資料 3. 平成 26 年度 ユネスコ活動費補助金	
グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業報告書	38～52
資料 4. 平成 26 年度 ユネスコ活動費補助金	
グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業企画書	53～71

はじめに

「世界一の環境先進大学」を目指す三重大学は、文部科学省のグローバル人材の育成に向けた持続可能な開発のための教育(ESD)推進事業(平成26年度～28年度)において「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム事業」が採択され、産官学民の連携によるユネスコスクールコンソーシアムを構築し、ユネスコスクールの拡大及び積極的なESD活動を支援することとなっています。三重大学は、平成21年8月21日に日本の総合大学初となるユネスコスクールに登録し、三重県のみならず東海・中部地域のユネスコスクールの支援を行っています。

平成26年11月に愛知・名古屋で開催された「持続可能な開発のための教育(ESD) ユネスコ世界会議」のパートナーシップ事業として「ESD in 三重 2014」を企画し、平成26年11月7日～12日に開催しました。また、12月6日にはPost-ESDとして『「ESD in 三重 2014」国際会議』を開催しました。アジア・太平洋地域を中心に世界の19カ国から210名の小中高大学生が三重大学に集まり、三重大学の練習船「勢水丸」による伊勢湾洋上生物多様性学習、松名瀬干潟生物多様性学習、鳥羽の海女との交流、海の博物館見学、斎宮歴史博物館見学、三重県総合博物館見学、分科会発表、環境コンテスト・エコアイデアの表彰式、名古屋国際会議場での三重大学ブース運営、ESD ユース宣言(和文・英文)、加藤重治前文部科学省国際統括官の基調講演、三重県内の16校のユネスコスクール活動発表会など多様なESD活動を行いました。なお、「ESD in 三重 2014」の活動は、内外のメディアを通じて広くアピールすることができました。

「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム事業」は、三重大学の環境マネジメントシステムによるPDCAサイクルを運用し、内部評価及び産官学民の関係者による第三者評価を行い、学内外へ公表することとなっています。平成27年2月26日には、三重大学で社会のステークホルダの10名による第三者評価を行いました。次世代を担うユースが地域に根ざし、世界に通用するグローバル人材として成長していく過程において、多岐に渡る持続可能な開発のための教育(ESD)は、大変重要なキーワードとなります。「世界一の環境先進大学」を目指す三重大学は、産官学民の連携による「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム事業」をさらに発展させることで、大学の社会的責任(USR)を果たします。第三者評価報告書は、三重大学のホームページ及び冊子として公表しますので、是非とも目を通して頂き、忌憚のないご意見を頂きますようお願い申し上げます。

平成27年3月



国立大学法人 三重大学
理事・副学長 朴 恵淑

1. 文部科学省のグローバル人材の育成に向けたESDの推進事業 「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム事業」概要



三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム事業

<背景>

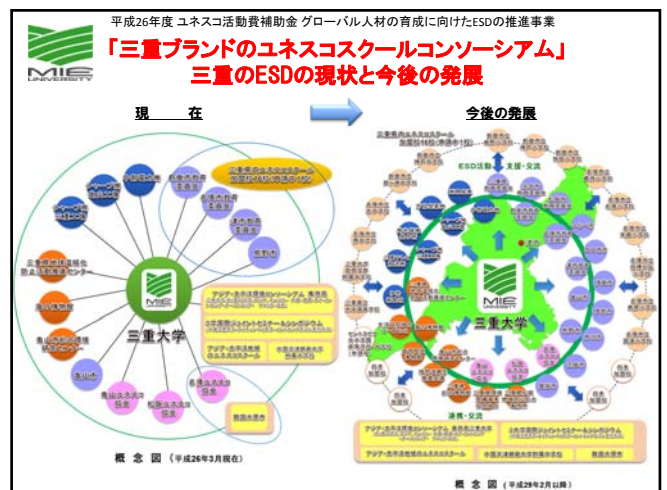
- (1) 名張市のユネスコスクールの小中学校は、韓国水原市のユネスコ協会との連携により絵の交換活動を30年以上続けている。水原市で開催される国際青少年環境フォーラムに毎年参加し、国際環境活動を行っている。
- (2) 津市のユネスコスクールの三重大学教育学部附属中学校は、中国天津師範大学附属中が校との国際交流を行っている。
- (3) 鈴鹿市のユネスコスクールの小中学校は、地域のブラジル、ペルからの外国人との交流を活かしている。
- (4) 熊野市のユネスコスクールの高校では、ユネスコ世界遺産の熊野古道について英語によるガイドを行っている。

<課題>

- (1) 三重県は、南海トラフによる巨大地震が懸念されている地域であることから、命を守る防災教育が求められている。
- (2) 松阪市の中学校を中心に松山瀬干潟の生物多様性調査が8年前から継続して行われており、地域の漁業組合、観光協会、自治体、行政、三重大学、教育機関との協議会によるラムサール条約登録に向けた活動の活性化が求められている。
- (3) 三重県庁を中心に、鳥羽市の海女文化をユネスコ世界遺産に登録する動きの活性化を図るべく、行政、三重大学、NPO、メディア、企業との連携が求められている。

<目的>

- (1) 既存の三重県内の4市の16校のユネスコスクールを拠点としながら、三重県内へのユネスコスクールを拡大する。
- (2) 環境・文化・地域の国際化を図る充実した活動内容を活かす、産官学民との協働体「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」を形成し、地域で活動する人材を育成する。
- (3) 地域に根ざし、国際的な視点を持ったグローバル人材育成のために、海外、特に、アジア・太平洋諸国との連携を図るべく「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」を発展させた国際連携事業を展開する。



文部科学省 グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業
「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム事業」平成26年度報

ESD in 三重 2014
～アジア・太平洋持続可能な開発のための教育(ESD)ユネスコ世界会議～
2014.11.7～12

ESD in 三重 2014 国際会議
～ESDに関するユネスコ世界会議の成果・今後の展望～
2014年12月6日
三重大学 工学部 工学棟 100号室

ESD in 三重 2014 国際会議
～ESDに関するユネスコ世界会議の成果・今後の展望～
2014年12月6日
三重大学 工学部 工学棟 100号室

「ESD in 三重 2014」
①国内外のユネスコスクールとの交流
②ユネスコスクール以外の学校へのESD活動の実施
＜三重大学練習船「勢水丸」による伊勢湾沿岸上生物多様性学習＞

＜島羽市海の博物館見学／海女との交流＞

「ESD in 三重 2014」
①国内外のユネスコスクールとの交流
②ユネスコスクール以外の学校へのESD活動の実施
＜松阪市松山瀬干潟での清掃活動／生物多様性学習＞

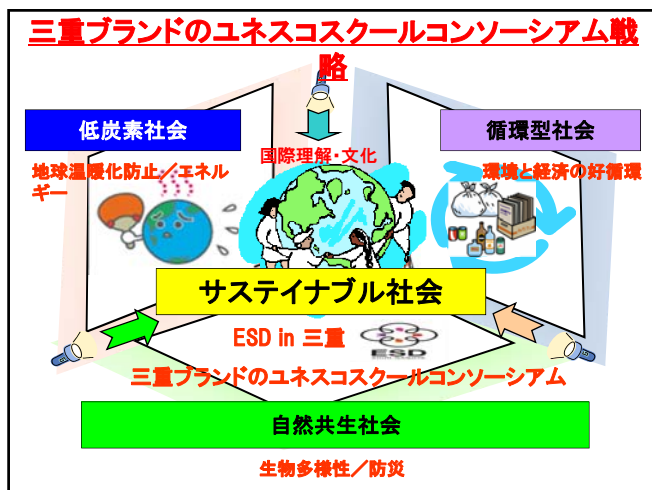
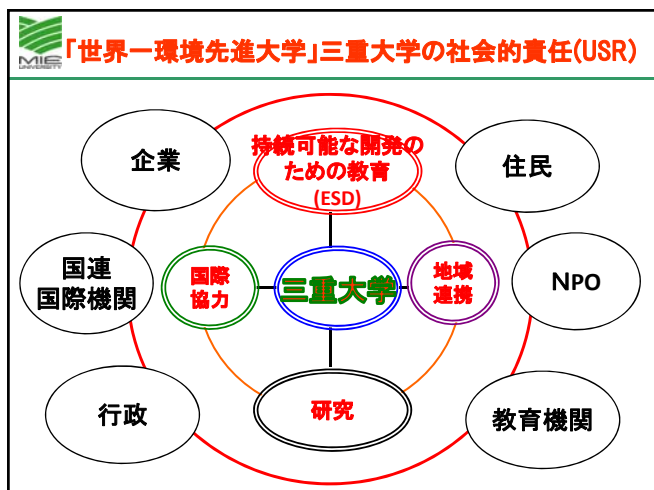
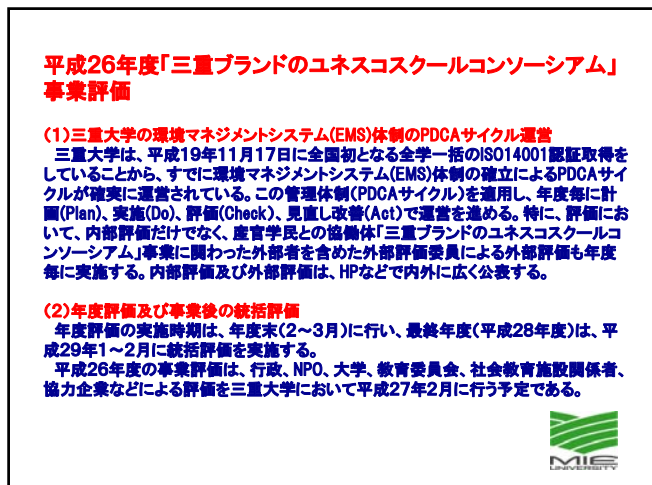
＜新宮歴史博物館見学＞

「ESD in 三重 2014」
①国内外のユネスコスクールとの交流
②ユネスコスクール以外の学校へのESD活動の実施
＜三重県総合博物館見学／分科会＞

＜小中高大学生の環境コンテスト授賞式＞

「ESD in 三重 2014」
④コンソーシアムの活動で得られた成果を内外で共有するための成果発表会
＜アジア・太平洋・世界の19か国210名による成果発表会＞

「ESD in 三重 2014」
④コンソーシアムの活動で得られた成果を内外で共有するための成果発表会
＜ESDに関するユネスコ世界会議場での成果発表会／ESDユース宣言文＞



ユース宣言

この度ESD in 三重2014に参加した私たち、アジア・太平洋地域のユースは、伊勢湾上国際環境学習など、環境及び文化に触れる様々なプログラムを体験しました。この貴重な体験を生かし、持続可能な社会をつくるためにこの宣言文を作成しました。

現在、気候変動や生物多様性の減少、環境悪化に伴う社会的・経済的な不公平のような、国境を越えた問題が起きています。これらの問題は将来になって、本人や周りに大きな影響を及ぼすことに違いありません。従って、私たちは、地球上のすべての命が調和する持続可能な世界を創るために、次のように宣言します。

1. 危険や安全に対する意識を高め、日ごろから身の回りのリスクを回避するために備えます。
 - ◎私たちは災害を自分にも起こりうるものとして捉え、危険について自発的に考えて、今日、明日、そして未来のために、知識を伝えていきます。
 - ◎一人ひとりが各地域の特徴を把握して、災害に関する課題を見出し、それに対応できる力を養います。
2. 今ある生態系を保護し、資源の有効活用のための活動を展開します。
 - ◎私たちはエネルギーを大切に、木を植え、環境に配慮した乗り物を使うことで二酸化炭素の排出を減らします。
 - ◎あらゆる生物が共存していくために、再生可能エネルギーの重要性を広めていきます。
3. 豊かな自然環境を次世代に残していくために努めます。
 - ◎自然のバランスを保つために正しい知識を身につけ、次世代にも継承していきます。
 - ◎環境保全活動に積極的に取り組み、世代を問わず、すべての人々への環境教育に力を注ぎます。
4. 生活と環境の調和を保つために努めます。
 - ◎環境問題を私たち自身の課題としてとらえ、遺産、文化、自然から得た知識を用いて、ともに行動します。
 - ◎持続可能な社会づくりに必要な習慣をつけるために、伝統文化を保全、継承する意識を高め、実行します。
5. 国際的な視点を持ち、アジア・太平洋ユースネットワークを強固にし、問題解決に協力します。
 - ◎私たちは互いの言葉に耳を傾け、違いを理解、尊重し合い、行動に移します。
 - ◎自国の習慣による固定観念にとらわれずに、さまざまな視点からものごとを考え、それを発信していきます。

私たちは、持続可能な社会づくりに向けて必要なことを考え、学び、平等で豊かな世界を目指します。自然と人間が調和し、命あふれる地球を未来に引き継ぐことを実現するために努めます。そのために、現代社会における問題に注意を向け、積極的に知識を習得し、解決に挑みます。この使命を果たすために、ともに努力を惜しまないことを、ここに宣言します。

2014年11月10日

Youth Declaration

We, the youth from Asia and Pacific region who participated in "ESD in Mie", experienced various programs that exploring the environment and culture of Japan including the international environmental learning at Ise Bay. We developed this Declaration to contribute to the establishment of a sustainable society.

Today, the world is facing a number of global issues such as climate change, deterioration of biodiversity, and the many social and economic injustices that accompany environmental degradation. There is no doubt that these issues are harming our world. Therefore, we hereby make the following declarations to create a sustainable world in which all creatures on the earth can live in harmony. To do this:

1. We will raise awareness for disaster and safety, and prepare ourselves to avoid potential risks on a regular basis.
 - We will think for ourselves about possible dangers, share out thoughts and pass them on.
 - Understanding the characteristics of our own region, we will acquire power enough for supporting the issues related to the disasters.
2. We will preserve the current biodiversity and promote activities to facilitate an effective use of resources.
 - We will take action to reduce carbon dioxide, save energy by using ecological transportation, plant more tree.
 - We will advocate for the importance of renewable energy in order to the peaceful coexistence of all the living creatures.
3. We will try to preserve the rich natural resources for future generations.
 - We will gain the properly knowledge concerning how to maintain the balance and inherit it to next generation.
 - We will participate in environment conservation activities as much as we can and we will also introduce and involve environmental education for everyone.
4. We will maintain the harmony between the environment and human activities.
 - We promise that we will take interest in Heritage, Culture and Nature. From knowledge we have gotten, we will consider the environmental problems as our own issues and we will take action all together.
 - To create sustainable society and to have necessary behavioral, we will reinforce the significance of maintaining the traditional culture and we will practice accordingly.
5. Having global perspectives, we will strengthen the solidarity among Asia-Pacific Youth Network and work together to solve problems.
 - Listening to each other, we can understand the mutual differences, respecting each other, we will take the action.
 - We will not be swayed by the stereotypes brought from our own societies. We will also think about it from diverse perspectives, think deeply and our thoughts with others.

We will think about what is needed to create a sustainable society, to learn, and walk together towards achieving the goal of creating an equal and affluent world. We will strive to make our planet a lively place in which nature and human society are in harmony. In order to achieve such goals, we will focus on various problems facing modern society, enrich our knowledge and find innovative solutions. We hereby declare that we will work hard and spare no effort to fulfill our mission.

November 10,2014

2. 「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム事業」運営・評価委員会報告

- ・日時：平成27年2月26日(木)13:00～
- ・場所：三重大学 環境・情報科学館1階ホール

出席者

氏名	所 属 ・ 役 職
朴 恵淑	国立大学 三重大学 理事・副学長
伊藤 久美子	斎宮歴史博物館 館長
上島 和久	名張市教育委員会 教育長
佐野 茂樹	三重県松阪地域防災総合事務所 主幹
鈴木 憲	三重県教育委員会 小中学校教育課 課長
谷岡 経津子	三重県ユネスコ連絡協議会 理事長
坪田 公兒	亀山市総合環境研究センター 事務局長
西岡 慶子	株式会社光機械製作所 代表取締役社長
朴 貞淑	岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科 講師
森下 佳南	愛知淑徳大学交流文化学部 助教

事務局

亀山 裕美子	国際環境学研究センター支援室 ESDコーディネーター
池村 進	国際環境学研究センター支援室 非常勤職員、ESDコーディネーター
石原 光博	国際環境学研究センター支援室 副室長
徐 侑里	国際環境学研究センター支援室 研究員

－ 運営・評価委員会議事概要 －

朴 恵淑: 本日は、文部科学省の『平成 26 年度ユネスコ活動費補助金 グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム運営・評価委員会」』の委員としてご出席いただき、ありがとうございます。今回の運営・評価委員会は、今年度、三重大学が企画したユネスコスクール関連イベント活動に関して報告をさせて頂き、27 年度及び 28 年度と継続していく事業で今後どういう形で運用していけばよいのか、世界一のユネスコスクール活動事業が可能になるのか、委員の皆様に貴重な知恵をお借りできればということで、急遽皆様にお集まりいただいたところです。

まず、私の方から自己紹介をさせて頂いた後、伊藤館長から順次自己紹介をし、本論に入りたいと思います。なお、本日出席いただきました方々のお名前、所属、役職を記載した資料を配付しておりますので、ご覧ください。

私は朴恵淑と申します。三重大学の理事・副学長として企画・評価、環境担当しております。企画では男女共同参画、評価は大学にとって重要であり、PDCA サイクルが継続的に機能しているか、また、自分の専門分野が環境地理学、環境教育ということもあり、環境に関することも理事、副学長として行っており、ユネスコスクールという環境に関するものまで幅広くやっております。どうかよろしくお願い致します。伊藤館長から自己紹介をお願い致します。



国立大学 三重大学
理事・副学長 朴 恵淑

伊藤 久美子: 斎宮歴史博物館の館長の伊藤でございます。今日はどうぞよろしくお願い致します。私は、地域の文化財ということで、ユネスコと非常に深い関わりを持っているのではないかなというふうに思っております。斎宮は、皆様よくご存知かと思いますが、古代から中世にかけ天皇の代わりに都から独身の皇女が遣わされ伊勢神宮にお仕えしました。その方を斎王と申し、その斎王が住んでいた所が斎宮です。国史跡に指定を受けました時には、住民の方の約 70%が賛同し、大変なご苦勞をして頂いたというふうに思います。今もその史跡の中に 600 世帯 2,000 人の方が生活しており、遺跡と住民が共存している全国にもあまり例がない史跡でございます。よろしくお願い致します。

谷岡 経津子: 谷岡経津子と申します。私は今、四日市市立博物館の館長をやらせてもらっております。この 3 月 21 日には四日市市立博物館が 21 年ぶりにリニューアルし、四日市公害と環境未来館という形でオープンいたします。全国で公害というのは 4 か所あり、四日市が最後の公害資料館の設置になります。最後の公害資料館のオープンとなり、素晴らしいものを作ろうと関係者の人達は、徹夜状態で作業を行っております。また、私は、四日市大学で長く教授として教鞭をとっております。私は 19 歳の時に光風会に初入選し、光風会の会員とし、日展の洋画家という形で頑張っております。私の専門分野が社会教育であり、また、絵描きという関係から四日市の市立博物館の館長に就任いたしました。三重大学にも絵を 3 点寄贈させて頂くことが出来ました。そのおかげで紫綬褒章という勲章を頂きました。ユネスコとの関

わりは、国民文化祭とか色々やらせてもらう中で、その時の担当者が「谷岡さん、ユネスコに関わってくれない？」ということと言われましたのが、ちょうど25年前でございます。そして、三重県ユネスコの歴史は、50年以上経ちます。時の教育長さんからぜひユネスコ活動を三重県でやろうと言われ、校長、教頭、教育長がお金を出し合って、基金を創りました。そういう中で基金が集まりまして、三重県ユネスコ連絡協議会ができ、全国でも注目されています。まずはこの辺で失礼致します。ありがとうございました。

森下 佳南：初めまして、愛知淑徳大学の交流文化学部の森下佳南と申します。このような大きな場所にお呼び頂いて、非常に恐縮しております。専門といいますが、実は昨年度の4月からこのような職に就いているので、まだまだ駆け出しなので、今は国際理解教育だとかESDのことを大学生と一緒に授業プランを立てて、発表して自分達で評価をするようなことをやっております。お力になればと思っていますが、三重大学さんから学べることも多いかなと思います。今日はどうぞよろしくお願い致します。

朴 恵淑：森下先生は、ESDの専門家であります。今後ともよろしくお願い致します。

朴 貞淑：皆様初めまして。岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科、建築・都市領域に勤めております朴貞淑と申します。今日は皆様にお目にかかって、大変嬉しく思っております。専門分野は地域資源を活かした持続可能な高齢者の福祉住環境です。どうぞよろしくお願い致します。



岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科
講師 朴 貞淑

鈴木 憲：皆さんこんにちは。三重県教育委員会の小中学校教育課の鈴木憲と申します。小中学校教育課でございますけれども、義務教育、小中学校の教育内容、教育課程を所管している部署でございます。小中学生でございますので、これから次世代を担う、本当に期待を込めていく子ども達でございます。そういった子ども達に、どのような力を身につけていくことが必要なのか、市町教育委員会の皆様方と共に色々取り組んでいるところでございます。特に、知・徳・体、これをバランスよく身につけていくことが大切であり、生きる力を育み、学力をしっかり子ども達につけて、課題を自ら見つけ、考え、判断し、表現していく力を身に付けていく必要があるのではないかと思います。やはり課題を見つける、そして自ら解決をする方法を考えていく、そういった力がやはり注目されているところでございます。このESDの取り組みなどはマッチしているのではないかと思うところです。それから、三重県にはやはり素晴らしい自然、歴史、文化があります。これを三重県の子供達がまず知って、それを国内外に発信していくような、郷土教育についても力を入れているところです。また、心の教育、道徳教育についても非常に重要な時期を迎えていると思います。そういった辺りで次世代を担う子ども達に力をしっかり付けて、そして、子ども達が大人になってから子ども達に、というような循環型の社会づくりを、何とかしていきたいと思っていますところでございます。皆様方のまた色々とお知恵をお借りしたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

上島 和久：私は名張市の教育長の上島でございます。どうぞよろしくお願い致します。名張市は三重県と言いながら、どちらかと言えば生活圏は関西の方面で、もともと名張は、奈良に都があったとき、東の



名張市教育委員会
教育長 上島 和久

外れが名張です。先程伊藤館長さんの話がありましたように古くは万葉の時代から非常に歴史のあるところであり、斎宮の関係の中では姫巫女のナカですね、夏見廃寺というところがあるわけでございますけども、そことの繋がり、また東大寺の関係ですね、お水取り、その松明をですね、名張から運んでいるという、こういうふうな形で未来遺産を認定の受けたところでございます。そして、小中学校の中でユネスコスクールということにつきましても、大変関心をもっており、朴先生に強力なアドバイスをいただきました。名張市は、小中学校合わせて 19 校あり、7 校がユネスコスクールの認定を受けて、色々な活動をしております。そのうち

の薦原小学校がギフチョウの生息地で、これを守っていこうと言うことで、昨年行われましたユネスコ世界会議の中でも発表させて頂きました。また、昨年末には三重県のみえ環境大賞を受賞しました。名張市教育委員会と致しましても更に、全ての学校がユネスコスクールに加盟し、市全体で色んな交流も出来れば大変有難いなと思っているところです。一気ににはできませんので、できるところから広めていこうと考えております。このような席にお招きを頂きましたが、皆様方に色んなことを教えていただき、名張市として1つでも2つでも更に取り入れるものがあったらやっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

朴 恵淑：お願い致します。名張市の全学校が入ったら、これは前代未聞のことですので、出来るだけ早い時期によりしくお願い致します。

西岡 慶子：光機械製作所の西岡と申します。教育だとか、文化だとかという枠の中に1人ビジネスというところから参加させていただいているので、的外れなこともあるかもしれませんが、企業として、ユネスコやESDをどんなふうに見るのか、というようなところで、皆さんと意見交換などをさせて頂ければ大変有難いというふうに思います。朴先生には、ここ数年大変親しくさせて頂いて、色々なことを学ばせて頂いています。今日もまた、このような機会を通じて先生から、あるいは皆さんから色々教えて頂きたいなと思っていますので、どうかよろしくお願い致します。

朴 恵淑：西岡社長はイギリスのサッチャー、鉄の首相と、それによく例えられる方で、英文学、英語の専門でありながら、今は、物づくりのトップランナーの社長でもあり、是非とも、そのノウハウも頂ければと思います。ありがとうございました。

坪田 公児：私は、坪田公児と申します。亀山市総合環境研究センターの事務局長をしております。私共のセンターは朴先生を中心に三重大大学の色んな先生方のお知恵をお借りして、亀山市のシンクタンクということで活動しております。勉強不足で皆様方と一緒に席を同じくするにはいかなものかと思ったのでございますが、お勉強させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

朴 恵淑：ありがとうございます。国際交流の中で一週間二週間、韓国大学生の面倒見ていただくなど、

重要な方であり、いつも頭が上らない状況であります。よろしくお願い致します。

佐野 茂樹：私は、三重県の松阪地域防災総合事務所、環境室の佐野です。私共は水質汚濁防止法、廃棄物処理法などの規制行政を担っています。昨年度から、地域の方々と一緒に環境のことを考えるアクア松阪創造協議会を立ち上げました。その中で環境教育というのは必要なものであり、どのようにしていこうかと、参画されている皆様と一緒に考えていただいているところです。松阪市教育委員会にも参画していただいております。昨年の12月末には、環境教育について、各小中学校の教諭や学校に対してのアンケートを実施し、環境教育への興味などを聞かせていただきました。協議会では先生方をサポート出来るような仕組みをこれから行っていこうかと、昨日、4回目のワーキングを開いたところです。微力ながら皆様とともに、お話しが出来たらというふうに思います。よろしくお願い致します。

朴 恵淑：ありがとうございます。このように産官学民の様々な立場から、しかも性別や年齢関係なく、多様性というようにところで少なくとも2年間は行いたいと思っております。何らかの形でもっと規模を大きくして継続したいということも、考えております。ユネスコということから産官学民の連携が必要で、それから国際的な流れの中で、どういう位置付けをしていけるのかという部分を一緒に考えながら、三重県がトップランナーで走りたいということもあり、皆様の力をお借りできれば問題なく2年後にはトップランナーなるだろうと思っておりますので、よろしくお願い致します。

皆様のところに一連番号として資料1から資料7までのプリントが置かれております。それから黄色いユネスコに関しては谷岡先生からの提供であります。そして、ちょっとオレンジっぽい赤いユネスコスク



ールと持続可能な開発の為の教育ESD、そういった日本ユネスコ国内外、これ文部科学省の中にあるんですけども、そこが年に1回ないし2回発行する最新版なんです。それを置かせて頂きました。出来ればこういったものをこれから年に1回ないし2回は必ず作って、内外にアピールしたいというふうに思っている部分であります。もう一つが環境報告書2014というのがあって、これは2006年から国立大学法人や国の外郭団体は9月30日まで必ず環境報告書作成して公表する義務があります。三重大学は2006年から作って、毎年環境省あるいは東洋経済新報社というところからなる環境コミュニケーション大賞、環境報告書賞というところを毎年のように受賞されておまして、昨日も実は東京のプリンスホテルで第18回環境コミュニケーション大賞でまた賞を取って、審査委員から高い評価を得ました。これも参考にさせて頂ければと思っております。

そしたらまず資料に基づきまして、三重大学が何をやったかということに関しての資料2から、私の方でパワーポイント、それから三重テレビに委嘱してお願いをしたDVD等をご覧頂ければと思います。それから皆様のご意見を頂くと、ということで第一部、第二部構成でいきたいと思っております。

まずこの資料1なんですが、これは大臣官房付の秋葉さんという方で、非常にクリアな方でありまして、解り易い説明を色んな所でやってくれました。その資料を使わせて頂きますが、いきなり10年間の総括、

それからESDに関するユネスコ世界会議の成果4つの宣言、GAPというこれから10年何やるかということの、まさに中身になるんです。それからESDが一旦10年間終わったけど、更なる10年間何をするのかという話がありました。その次、10年間の総括というところですね、実はこれは、これは森下先生の方が専門だと思うんですけども、若干タイムマシンに乗ってですね、今から23年前に行って頂きたいと思いますが。地球サミットというブラジルのリオで初めて国連が戦争を防ぐ為の国連だったものが、環境ということで地球サミットというのを6月に開催しました。そこで色んなアジェンダがある中で特に大きく皆さんに関心を持ったのがリオ3兄弟という、大きな国際的な約束事が決まりました。そのリオ3兄弟とはですね、まず温暖化を防ぐ為の地球温暖化防止条約、気候変動枠組条約と言いますが。

もう一つがそれに伴って、生物多様性を守ると。それからもう一つは日本にあんまりなじみが無いかもしれませんが、砂漠化防止ということで、リオ3兄弟を作ってですね、実は日本はその後もものすごく協力しておりまして、97年には京都議定書ということで、温暖化のトータルで6~8%少なくとも減らすという約束をしています。4年前のCOP10という言葉でよく言われていましたが、生物多様性を守る為の名古屋議定書もそこで決まるほど、日本はすごく頑張っていました。その流れを汲む中で、ちょうどリオプラス10ということで、南アフリカ共和国のヨハネスブルグという所で世界の180か国を超えるトップが集まって、リオプラス10ということで、10年間何が出来たのかということを経営する時期がありました。その時の内閣総理大臣が小泉さんでして、あの方が提案をしたのが、出来るだけ早く、持続可能な開発の為の教育、つまり環境と経済と社会と文化のバランスがとれた教育してよと。それで、どこがやるかといった時に、ユネスコがやるのがいいのか、UNEPという国連の環境計画というナイロビにあるのがやるか、と色々あったのですが、ユネスコでやりましょうよというふうに決まったのが2014年です。だから去年の2014年が満10年ということで、日本が頑張ったから日本で統括しましょうということがESDのユネスコ世界会議というのがありました。これから三重は名古屋と本当に近いので、一緒に手を組んでトップランナーで走りたいというのが本音であります。そして、先程西岡社長から話がありましたが、ユネスコスクールというところに企業の人かと仰ったんですけども、これは産官学民の連携なので、オープンマインドで三重はいきたいということで、ある意味では非常に先進的で、企業も、NPOもそれから博物館もみんな一緒にいるのは三重の誇れる一つの特色であります。

そこから次がESDに関するユネスコ世界会議の成果、ローマ字の2のところですが、岡山が主にステークホルダーという第3セクターの方々が集まって、右側、これですね。右側の愛知県名古屋には政府関係者とかそういうオフィシャルな会議を行いました。次に⑤のところですが、ここが終わってから、また今年から早速やりましょう、ということなんですけれども、世界の80か国の363以上の団体が意見を出しました。その中でみんなカテゴライズをして、5つのテーマ別に分けて、これからこれやるという形になっております。まず政策的支援、だから産官学民の官が何をすればいいのかということなんですけれども、一応教育というところから、教育の現場では3番目の箱の中、教育者の負担が大きくならないように、行政は政策的支援をしよう。それから4番目の箱のユース。このユースは、三重大学大学生を考えるけれども、本当は幼稚園、もっと赤ちゃんの時からずっと死ぬまでの方を全部ユースに私は入れたいなというのに思っています。地域の一線から、仕事一旦定年なされた方も第二、第三のユースとして関わって頂けないかなというふうに思っておりますが一番右側のローカルコミュニティで、中部自治体であったり、博物館とか色んなところがあったり、これはみんな一緒にいっていくということです。

そして左から2番目のところで、機関包括型ですけれども、これが産官学民みんな一緒になっていくということでありまして、垣根とか縦の壁は破ろうということで、ノウハウを共有しながら5つの優先的な行動分野でやっていきましょう、ということで、GAPのGはグローバル、Aはアクション、Pはプログラム、プロジェクト、なんでもいいですね。つまり、グローバル的にアクションをとろうと。よくグローバルということを言われますが、グローバルにやっていくにはローカル解らないといけないし、ローカルで頑張った人達はグローバル的な視野でやらないといけないということが、まさにこのユネスコスクールという、ESDというところからはっきり見えました。その次になりますが、更なる推進で三重大が選ばれたということになります。それがグローバル人材育成に向けたESDの推進事業ということで、真ん中に教育委員会、大学、今とりあえず大学が高等教育の最高の頂点なので、まず大学動けという形で大学、それから、その下にユネスコ協会それから、企業、NGOあるいは機関というところで、博物館とか色んなセンターとか、そういう部分も一緒になっていくと。そういうことで、日本の全ての国公立、私立の大学に呼びかけしました。そこで、三重大は三重ブランドのユネスコスクールのコンソーシアムを作ると手を挙げましたら、採択されました。

最後になりますが、選ばれたところが、教育大学が結構入っていて、宮城教育大学は東北の7県と北海道を管轄して下さい。それから金沢大学は北陸を全部やって下さいと。日本海をやってもらうことになります。三重は中部・東海ですけれども、三重ブランドというのは包括的に考えて、少しずつ広げて2年後には中部東海ブランドというふうに変えてもいいかなと思っています。奈良は世界遺産の宝箱みたいなところでありまして、奈良教育大学は奈良の博物館だけでもまとめるのが大変だそうです。それと教育委員会で唯一きたのが福岡県でありました。そこも今、県レベルでユネスコスクールを全部やらせたいと言っています。

先程、ESD サステイナブルということの意味が何かということで、環境と経済と社会と文化というところで大きく8つの輪を書いております。先程5つ選ばれたところのそれぞれ特色を活かすということになりますけれども、一応一番上が環境学習、これは今こちらには四日市公害とか色んなもの展示していますが、本当に公害学習から今の環境、エネルギー、そして恐らく防災もそうですが、3.11 東日本大震災以降かなり大きく変わって命を守るということになりました。生物多様性、気候変動、その他人権、男女共同参画、世界遺産、文化財それから国際理解学習というのがあります。



これは三重大の空中写真であります、三重大は1つのキャンパスに5つの学部6つの研究科一緒になっている。広さでは北大、筑波大に続いて3番目に広い大学であります。昔から三重大は三翠、三つの緑と言われておりまして、うちのシンボル、大学のシンボルのロゴも緑になっておりますけれども、空の緑、海の緑、木の緑というふうになっておりまして、自然豊かな所です。海が一番近くて非常に環境に恵まれた所ですが、東日本大震災以来、南海トラフによる巨大地震が起きたら一番危ない大学になって

その次、私たちコンソーシアムの事業は、うちとしては名張が8校から7校になっていて、韓国の水原市と30年来の名張ユネスコ協会を通じて絵の子どもの交流会もありましたし、それからここ3年間続いておりますけれども、青少年水フォーラム、環境フォーラムに名張市が学生の登校費とか負担もして頂くことになるのでやっております。三重県には29に市町がありますが、まだまだユネスコスクール頑張らないといけないのが、この4つの市、津市、鈴鹿市、熊野市、名張市だと思います。もう一つが、松阪市にある伊勢湾に面している典型的な干潟を三重県で初めてラムサール条約にしたい、それからちょっとかかるかもしれないけれども、鳥羽市の海女文化を日韓仲良くユネスコ世界遺産に出来ないかこういった形で国同士では政治的形で緊張関係があるけど、ユネスコという教育というところでは垣根がないので、手を組んで出来ませんか？ということもやっていきたいという、非常に小さいレベルから大きなスケールまで考えております。とにかく4市から29の市町まで全部広げたい。少なくとも14の市は全部やるという形でやっています、2番が産官学民との共同体、共に働く、そういうことでコンソーシアム作るということになりました。

[illegible]

— 13 —

思いました。

右側はちょっと無理を言って統括官を三重大学にお呼びしまして、ポスト、ESD が終わった後の話を子ども達や皆さんに直接、直に文部科学省のESD トップが直接来て話をするということでありました。その次に私たちがやっているのが三重大学はISO14001を取っているので全ての授業はPDCAサイクルで内部監査が出来ます。そこは敢えて内部監査のみならず外部評価も行います。最後には、内部評価及び外部評価はホームページなどで発信していきます。これは何かというと、英語バージョンも作るということです。日本語だけでなく英語バージョン、出来れば韓国語バージョン、中国語バージョンも作りたいと思っております。次に、私達よく企業とか、CSR、責任を果たす社会的。大学はUSR、これ三重大学は2006年から言っていて、三重大学のトレードマークですが、大学が真ん中にとりあえず立ちましょ。それで周りのセクターを全部一緒にやりませんか？と呼び掛けをしましょう。地域連携、国際協力で、国際的なところを産官学民皆でいって研究も社会貢献もやるけれども、大きな機軸は教育ですよ、ESDですよということで社会的責任果たそうと言っています。最後になります。今まで世の中の色々な環境に関する、ニーズが高くなっている中で私達は大きく3つだろうと。これはリオ3兄弟にちなんだものでありますけれども、低炭素社会です。まず温暖化ダメ、そしてエネルギーをちゃんと考えましょと、そして、環境と経済の好循環を作って循環型にしようということです。また、自然共生ですが、私達はそこで四日市公害も経験しているし、色々な部分で自然の怖さと自然の偉大さ、というものを学んでいく。この3つがうまく回ったらサステイナブル、私達があの世に逝った後でも、子どもから次の子どもが、ずっとこの発想を引き継いでいい社会作ってくれることを期待しています。これが主旨説明の最後になりますが、あとはDVDをご覧頂いて皆様のご意見を頂きます。



（「ESD in 三重 2014」DVD）鑑賞）

朴 恵淑：ありがとうございました。

これで、私たちが平成26年度の初年度に、どういう目的でどういう活動を行っていたのかがお解かりになったと思いますが、ここからみなさんのご意見をいただいて来年、再来年につなげたいなと思っております。先ず、上島教育長、お願いします。

上島 和久：非常にこれだけの活動を朴先生の指導の下でされていて、大変評価をすべきではないかと思わせていただきました。また、やはりいろいろな子どもの目線で見ると、さまざまな大人では気がつかないところも出てくるかなと思います。ふだん何気なく生活しているところのもの、子どもの目線からこうしなければならぬという分科会等での議論が、中身の濃い話ではないだろうかと思わせた次第です。今回の取り組みに対しまして本当に素晴らしいなと思わせてもらっています。ただ、ある学校は自然のことを、ある学校はまた海洋とかいう形で進むのは、それはそれで良いと思いますが、それらを統括してまとめていくには、何か一つのポイントを持って見ていくということもある部分では必要なところがあるだろうなというような感じを思っております。

それから、やっぱり小さいときから、さまざまな国内はもちろんですけども国外を含めていろんな多様な考え方を身に付けていくことが非常に大事なことでないかと。今インターネットやいろんなことで、

子どもたちは小学校のときから調べ学習というような形がなされているところですが、そういうときにも、やはりちょっとしたポイントというか、それをいかに指導者がそのことを、先を見据えた中のポイントの視点というかね。そこらをどうやってするのか、というところがまた違った形で必要になってくるところがあるのかな、という感じを受けました。

名張市のやっているような形の中で、環境大賞をもらったときに小学校3年生、4年生、5年生あたりの子どもが市長さんに対しても非常に堂々と「今日はクイズを作ってきました」と、非常に丁寧にうまく解説をしていたのが非常に印象に残っています。やはり小さいときからいろんなそういう課題を持って、自分たちで調べ学習をしながら、また他の人との交流をして、そして自分たちも発表するという、これが大変大事な営みではなかろうかと思いました。

本当にこれからの社会をより良く生きていくために、またより良い国づくり、地域づくりをするためにはどうしていかなければならないかという、今の子どもたちがそういう力をしっかり身に付けてやっていかないと成り立たなくなってくるじゃないかということです。そう思いますので、一つは、三重大学が三重県の教育の拠点となって、ESD なりユネスコスクールなりをやっぱりリードしてもらおう。そしてそれぞれの県内の29市町、また各学校、小中高も含めてですけど、やはり何らかの関わりを持っていくように。そういう意味では、今県教委の鈴木課長さんがおってくれますけども、学校でやらなければならないこと、学校だけではできないことを、やはり地域の人、あるいは関係団体、あるいは民間の企業の皆さん方を含めて、今こそこれを一丸となって、三重の子どもたちは、三重の県民すべてが見守り育てていく、それが最終的には三重県の発展につながってくると私は思わせてもらいました。私の感想なり思いです。

朴 恵淑：上島先生、ありがとうございました。



三重県ユネスコ連絡協議会
理事長 谷岡 経津子

谷岡 経津子：続いて言わせていただいてもよろしいですか。名張の上島教育長みたいな人が三重県内の教育長さんであつたら本当に助かるなあと。名張の場合は、亀井市長さんがトップランナーですね。

ちょっと長くなりますけど、三重県では名張ユネスコ、津ユネスコ、桑名ユネスコが長い歴史なんです。桑名ユネスコは高齢者のために、協会はなくなりましたが、バン格拉ディッシュに寺小屋を作っていたんですよね。すごいですよ。その活動だけを中心にやっていたんです。これは日本ユネスコ協会連盟でも非常に注目されていたんです。そういう中で、次は紀北ユネスコ。これは熊野古道が世界遺産

をいただいてから小倉教育長さんに頼んで紀北ユネスコ協会が立ち上がったわけです。それから三重大学を中心としたウィズみえユネスコクラブです。それから亀山ユネスコ協会、松阪ユネスコ協会ですよね。去年は菰野ユネスコ協会が立ち上がりました。今発足に向けて運動しているところは、四日市ユネスコ協会、鈴鹿ユネスコ協会、伊勢ユネスコ協会です。やはり最後は平和というところに行きつくと思うんです。これをやはり落としてはいけないのです。この1ページに書いてあります。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」。この文言があるわけですけど、今世界

は大変な時期でございまして、シリアのお年寄りが「平和さえあれば私たちは何もいない」と、先般ニュースで見たところです。やはり子どもたちにとっても、学生にとっても、もっとわかりやすいという形で広めたいものです。ESD は持続可能な社会づくりの担い手を育む教育であります。環境教育、国際理解教育、世界遺産、地域の文化財、気候変動、生物多様性、防災教育、エネルギー、すべてをESDは学習として包含されているわけですね。

ただ、学習指導要領で総合学習という科目がございますから、今までやってもらっていることと何ら変わらないことを学校現場で続けてもらったら良いわけですね。難しいことを考えず、それがすべてこのESD、ユネスコスクールに繋がるわけです。そのように考えていただき、ぜひ現場の先生方お取り組みいただきたい。現在、亀山さんに、あらゆる学校、知り合いを通して、伝えていただいている現状があるかと思えます。先程見せていただいた画面から、子どもたちの顔はイキイキとしていて、こういう活動をして良かった、やはり机上の勉強だけではできない、得るところが非常に大きいと思います。その点は、三重県はユネスコ連絡協議会があります。そして社会教育課と指導課が非常に連携を取り全国的に頑張っているほうだと思いますが、まだ頑張れる余地があるかなって。こういう活動を私は朴先生から伺って存じ上げているほうですが、今日、非常に理論立てて教えていただきますと、知らない部分もたくさんございまして、素晴らしいことだと思います。

私は、日本ユネスコ協会連盟の評議員もさせてもらっていますが、協会の設立で、東京で認証をいただく時、「また三重県出てきたの」と、事務局から言われるぐらい、朴先生がいらっしゃることで注目を浴びていることは事実です。その点で一ついえることは、民間ユネスコ協会という形ができ、ユネスコは民間にまかせたらという部分もございまして、三重県ユネスコ連絡協議会が三重県教育委員会の中にあるということは大変良いことであると非常に評価されているのです。そして文部科学省の条文の中には、ユネスコ活動をする場合は、文部科学省は惜しみなく協力するようにきちんと明記されています。三重県もそういう点で心強く、頑張ってくださいと思うわけでございます。

私は、いろんな市町のまちづくりなどをさせていただいていますが、予算がないと、はっきり言って動けないとの現実があります。今回も平成26年度の採択団体になったんですね。これは本当に大きなことで、ユネスコ協会と教育委員会、NGO と企業が連携しながら、ますます連携を強化してやっていくことは素晴らしい。やはり若者へのグローバルな人材育成、次世代に何を残していくかが私たちの使命だと思っておりますので、グローバルな思考を持ちながらアクト・ローカルで、地元に着した活動で、難しい活動を考えずに今やっていることで良いんだということを広めてほしいし、教育長会議等でも朴先生が出向き、「教育長会議を今度三重大で開催します」ぐらいのね、この話をしてほしいぐらいです。鈴木課長さん、今日ご一緒になれましたことを大変うれしく思っております。ユネスコスクールに関しては、私学も本当に頑張っておりますね。セントヨゼフ、皇學館も梅村学園も。これは遅れてはいかんという形で、海星高校も、暁もがんばるという様子がちょっと見えてきました。四日市看護医療大学も丸山学長の方からぜひやりたいという前向きなご返事をいただいております。やはり三重大が本当にすごい、朴先生はすごい人です。御一緒に机上で勉強させてもらっていることが何よりうれしく思っております。よろしくお願いします。

朴 恵淑：谷岡さん、本当にありがとうございました。ユネスコに関して三重大が2009年8月21日、

総合大学として初めてフランス、パリからの登録をさせていただきました。私たちがユネスコスクールに登録しようとした時にどのような間違いがあった情報が入ってきたか。教育大学でないとダメ、と言われていましたが、谷岡先生から「総合大学はできるんだよ。やってごらんなさい」ということで、直接フランスのパリに連絡をしたら、「絶対できないはずがない」という答えが来ました。それから、1年半かかりました。日本の教育関係者はちょっと反省しなければいけないと思うのですが、ユネスコが要求する書類で、簡単だけれどもその簡単な書類がなかなかない。基本的なものは当たり前過ぎているからないのですね。ユネスコが要求するのはすごいものではなくて、基本的な、あなた方の大学の理念は何ですか？ 学生はどのくらいおりますか？ 予算規模はどうですか？そのような本当に基本的なことがまず必要なのだけれどそれができていない。しかし、先生のおかげで自力で取得したから、潜り抜けていける道もあるし、絶対必要なものもわかってきてここに至っているわけですね。

そこで谷岡先生から話が出ましたが、難しいのはやっぱり教育委員会。各教育委員会で、温度差があまりにも大きすぎる。こちらも各教育委員会を、ほぼ1カ月に何回も思うところには行きますが、3年経っても未だにウンと言わない教育長もいます。なぜこんなに違うのか、こちらが話をして説得させる能力がないのか、最初からこれはやらないとトップが思ったらその地域はダメなのか、言いにくいと思いますが、言える範囲内でけっこうですので、どうしたら教育委員会のトップとうまく話ができるか、あるいは担当者と話ができるか、教えていただきたいですね。

鈴木 憲：どのように、それぞれの教育委員会にご説明に行かれたかがわかりませんので何ともお答えのしようがないのですが、学校現場の取り組み状況についてはお話ができます。

まず、環境教育について申しますと、6月5日、世界環境デーですね。これを学校環境デーと位置付けて、すべての小・中・高等学校で、この日を中心にして、年間を通じて計画的に環境教育を進めるという取組を平成8年度からスタートしています。公立小中学校の所管はそれぞれの市町教育委員会ですので、県からすべての市町教育委員会を通じて、すべての公立小中・高等学校に取り組みの促進を



三重県教育委員会
課長 鈴木 憲

お願いしてずっと今まで続いています。どんな取り組みかをご報告をいただき、その中でも特色のある取り組みについては概要をまとめてご報告いただいています。例えば平成25年度の取り組みでいうと、地域の企業と連携したキッズISOの取り組みがあります。また、地球温暖化の現状、対策として家庭でできる省エネの取り組みについて学習するとか、学校でできるエコ工作、牛乳パックでのオモチャを作り、クリーン作戦の取り組みがあります。私が校長として赴任した中学校は、二見という夫婦岩がございます。その海岸は海水浴場になっていて、自分たちの力で美しくしようと地域の方と連携し、生徒会が中心になって定期的にゴミ拾いをしました。二見海岸は確か日本で初めての公設の海水浴場だと思うんです。非常に地域の方の協力も厚いところで、生徒会や地域の方が中心になったりして定期的にゴミ拾いをしました。それぞれの学校で地域の実情に合った環境教育の取り組みをやっていることは確かです。そして、平和教

育についても当然ながらそれぞれの学校でいろんな取り組みが行われています。特に今年は戦後 70 周年であり、地域の戦争体験者が減る中で、実際に総合的な学習の時間にお話を聞いたりして、それを語り継いでいくにはどうしたら良いか、それぞれの地域が取り組みをやっているんですね。そういう中で、どのような形でご説明に行かれるかが一つポイントになってくると思うんですね。例えば ESD をやりませんかと言ったら、たぶん ESD って何かというのがわからないと思うんです。また新しい教育をしなければいけないのか。学校は教科数の時間が決まっています。環境教育、平和教育、租税教育、どの時間にするんだということになるわけですね。今、素晴らしいお話を聞かせていただいているんですが、学校現場で実際にいろんな視点から取り組んでいる内容が多いと思うんです。それをどう説明するか。ユネスコスクールと言われると「エッ」と思うわけですよ。だから、どう説明していくかというところが非常に重要なポイントになるかと。「そのままが良いんですよ」と言っても、ユネスコスクールに指定されたら「何がどうなのか」ということもあったりするので、説明が重要かと思います。以上です。

朴 恵淑：はい、貴重なアドバイスをありがとうございました。

次に西岡社長、私たちの大学とは違いますが、新しい社員も入りますし、ベテランの方もいますし、その中でどういう社員を取り入れたいなどがあれば、聞かせてください。ESD を教える立場から、企業はどういう人材を必要としているのか教えていただけたら切り口が開くと思うんですね。



株式会社光機械製作所
代表取締役社長 西岡 慶子

西岡 慶子：お話をうかがっていて、二つとっても素敵だなと思ったところが、今の先生のご質問にお答えできるところかなと思いますね。あと、ちょっと残念だなと思う点が1点と、ちょっとよく分からないというところが二つあったんですね。先生のご質問にお答えすると、一つは、今はグローバル、そしてダイバーシティが非常に大事な時代だと思います。これを子どものときから実体験の中で自分もそこに加わってグローバル化、ダイバーシティを自分のものに行っていることが、企業に入ってからすごく大きいと思います。そしてもう一つは、三重大学でも PDCA を回しているというお話をさせていただきました。企業も全部 PDCA で

すけれど、最近思うところがあるのは、PDCA だけではいけない。その前に気づかないと P にならない。ですからこれは、ファインドが良いのかノーティスが良いのかセンスが良いのかわからないのですが、まず自分が感じて問題を発見したうえで、PDCA を回していかないと、非常に空虚な PDCA になり、心も入らない。これが ESD の中ではできていくのではないかな、感じる力という先ほどのところを含めてなんですけど、そういうふうに感じました。

そして、やはりちょっと残念だと思うのは、鈴木課長がおっしゃったように、名前が問題だと思います。私もこれを読ませていただく前には、ユネスコスクールというのがピンときませんでしたし、ESD についてもよく分かりませんでした。ですからもうちょっとそこが具体化できるようなところになれば、企業ももっと親近感をもてるし、なぜこんなに賛同されるところが少ないのかなと思ったときに、やはり名前の問題があるのではないかと思いました。とっても素敵なことなのでぜひ広げていただきたいと思います。

広まらないことの中に、和訳でたくさんの方が失敗していると思うんです。何かもう少し補足の説明ができて一目瞭然、あるいは言い得て妙みたいな、そういうところをみつけられると。先生はそういうのがすごくお得意でいらっしゃるので、ぜひ三重からそういうメッセージが届くと良いのかなと思いました。

朴 恵淑：ESD、実は言葉が3回も変わっています。どういうふうに変ったか。最初、文部科学省の訳は「持続可能な開発のための教育」が1回目。しかし、ずっと繋がる「持続可能」は良いのですが、「開発」というと経済だけかという話になり、2番目の訳は、「持続発展教育」というようにしました。それでも「発展が何ですか。開発と発展は何が違うのですか」と言うことで3回目、元に戻しました。「持続可能な開発のための教育」。それだけ文部科学省もESDに対する悩みがあります。ある意味では名古屋市長の河村さんが何をしたと思います？「そんなに難しいならSKE48を呼べー」と。SKE48がESDをどこまで広めてくれたのかわかりませんが、ホストをやるところの行政のトップが困った末にSKE48を起用したことに、未だに評価が出ていません。それだけESDに対しては難しいかなと今悩んでいるのですが、ここで森下先生、アメリカでもESD、一応英語と日本語の微妙なセンスの問題、ニュアンスの問題があると思います。ネーミングが大事だというご指摘に先生、考えられるものはありますか。



愛知淑徳大学交流文化学部
助教 森下 佳南

森下 佳南：アメリカにいたときは、エデュケーション・フォー・サステイナビリティ、EFSという形で読んでいました。国連の定める正式名称はESDですが、アメリカの方ではわかりづらいというかディベロップメントは要らないという考え方で、持続可能性のための教育だということで、それを目指すためにどう教育現場で教えれば良いのかという考え方だと思います。地域だとか、住まわれている場所、国もそうですけど、日本の中で、三重、愛知、この2県だけでも特徴が少し異なりますよね。三重大学さんはどちらかというと環境の方にフォーカスを置いて、特徴があると私は思っているのですが、地域によってどう捉えるかということが異なって、自分たちがまず

地域で何が必要なのか、どういった子どもたちを育てたいのかと、市民が作り上げていくものではないかと思うので、あまり名前にこだわっていると、あっという間に時間が過ぎてしまいますね。

朴 恵淑：ESDという単語は難しいから、東大はサステイナビリティ学、京大は「環境科学とか環境学と何が違うんだ」ということで論争が始まっている。官僚はサステイナビリティ学とか好きで言いたいんだけど、やっと西の方からサステイナブル・キャンパス・ネットワークというのができたが、そこに東大が入っていない。サステイナビリティという言葉が一番先に使っていた東大が入らない。大学側の中でも一枚岩でなかなかいかない。

森下 佳南：副題とかが付けられると良いですね。

朴 恵淑：また一緒に考えたいですね。ただ先生はこの中で一番若い先生で、一緒に学生たち、中学生も小学生もご覧になってどう思われました？英語があまりできませんが、何とか通じたようですが、先生は

アメリカにも日本の両方わかっている方として、学生たちがこれから ESD をやっていくときに、言葉の壁はどのくらいあるのか、それはやっているうちにわかるのだから、先生だからこそんな感じるものがあると思うのですが、教えていただければ参考になります。

森下 佳南：ありがとうございます。本当に、私が出会った三重大大学の学生、「ESD in 三重 2014」に関わってくれていた日本の子ども、海外から駆けつけてくれた子どもたちも、変わらないといえますか。人として、人間として一生懸命活動して目の前のことに感動して、同じグループで課題、例えば環境だとか国際理解とか防災とか、それぞれにテーマが与えられてグループでどうしたら良いかを考えていたと思うんですけど、何処から来ている人だとかあまり関係なく接していたように感じます。アメリカはもちろん多民族多文化国家なので、まったく気にしないですね。母語が何語なのかとか。やはりコミュニケーションレベルが、がくんと落ちてしまうことはあるかも知れませんが、一人間として接しているような気がします。それは、私たち大人の方が見習わなければならないのかなと思います。

朴 恵淑：ありがとうございました。ずっと期間中一緒にいた朴（貞淑）先生はどういうふうに思っていたらよかったか。「ESD in 三重 2014」全体を見たときもそうですし、岡山県立大学は今森下先生を中心として、ご研究していられしていますが、それをずっと見ている立場から、何か参考になることを教えていただければと思います。

朴 貞淑：私は「ESD in 三重 2014」の全日程に参加しました。最初、勢水丸に皆様と一緒に乗りました。海の中にどんなものが生きているのか、また、その生き物を取り巻く環境はどんなものになっているのかについて貴重な体験をしました。また、海の博物館や斎宮歴史博物館、松名瀬海岸の生き物の調査及びゴミの掃除も行いました。「ESD in 三重 2014」について申し上げますと

まず1 番目です。参加した若い学生たちはすぐ友だちになって、とても面白そうに意思疎通をしながら、絵も描きながらお互いにコミュニケーションを取っていました。また、ユース宣言では、自分たちの体験を活かして、持続可能な社会を作るために努力しますと宣言しました。私はこのような機会を一度だけで終わらせることなく、また今後も続けるチャンスになってほしいと思いました。今はインターネットやスカイプなどもありますので、お互いに連絡ができるように何かネットワークの構築ができれば良いと思います。それでお互いのコミュニケーションを続けたら良いと思いました。

2 番目です。三重大大学は大きな勢水丸を持っています。他の大学にはない恵まれた環境にあります。生物多様性を調査する重要な教育施設を持っていますので、もっとこの船を活用できるプログラムがあったら良いと思いました。

3 番目としては、三重大大学演習林で林業体験をしました。生まれて初めて大きな木をノコギリで伐りました。三重大大学は海や山の生きた体験ができる素晴らしいフィールドを持っていることを分かりました。

次は4 番目です。私が勤めております岡山県立大学では、森下先生が瀬戸内海の犬島を中心に ESD 教育プログラムの開発をしています。犬島は瀬戸内海に位置しています。私は「ESD in 三重 2014」で鳥羽に行きました。伊勢志摩はリアス式海岸でとても美しい景色でした。海女文化も拝見することができました。ただ見るだけでなく海女さんとお話もできました。本当に生きた体験と勉強になりました。

犬島の事例をちょっと簡単に申し上げますと、犬島は高齢化が進んでいる島です。この状況で高齢化が進みますと、もうじき無人島になるのではと島の会長さんから伺っています。これを背景に、昨年私

を中心にプロジェクトがスタートしました。教員5人での地域資源を活かした持続可能な高齢者の福祉住環境として、高齢者のためのリゾート・レジデンスです。地域の高齢者だけでなく、海外からでも素晴らしい瀬戸内海にある犬島に来てくださいというプロジェクトです。このような地域活性化を含めた、地域の共通する課題として、今後三重大と岡山県立大学が発展させていく機会を望んでおります。

最後ですが、環境及びESD教育の日本一、日本一ですともう世界一になると思います。リード的な存在である三重大の発展をもっともっと期待します。どうもありがとうございました。

朴 恵淑：ありがとうございました。今犬島を一つの題材としてまちづくりですね…。

朴 貞淑：犬島は昔人口5,000人ぐらいで、小・中学校もありました。今は人口50人しか住んでいない、高齢化が進み、施設、学校も廃校になっています。私たちはその使っていない学校などを地域資源として活かして、高齢者の施設として、地域の方や海外からの方などが過ごせるように、リゾート・レジデンスという提案を検討しております。

朴 恵淑：廃校に泊まるのですね。ESDは先ほど田中先生がおっしゃったように何でもできる、テーマを自分で設定できるので、いろいろまた教えていただければと思います。そういうことで見てみると、環境が主な三重大だけれど、幅広く見たときに文化やいろんなものがあると。ESDの本当に立派な教材になると。そういうことで伊藤館長にちょっと教えていただきたいのですが、日本の文化の着物に触れる体験はありますが、着せてくれる博物館は初めて見ました。これは館長のアイデアですか。



斎宮歴史博物館
館長 伊藤 久美子

伊藤 久美子：残念ながら私のアイデアではありません。体験することは、理解に非常につながると思います。皆さんに着ていただいたのは、外側から2番目ぐらいの着物で十二単の中の桂（うちぎ）というものです。それを羽織って頂き、触れてみて頂くことにより、昔の生活の一部を実感して頂くという取り組みです。外国の方であろうと日本の方であろうと、そういうことを通して、その当時の文化を知って頂く事が、文化の理解に繋がって行きグローバル化というものに繋がると思います。

実は私、朴先生からESDの中には斎宮歴史博物館も関連していますとおっしゃって頂いた時に、ESDを余りよく知らなかったもので、ESD＝「環境」というイメージがありました。明和町は自然が豊かで、しかも斎宮では遺跡の上に博物館が建っているんです。もちろん下の遺構を痛めないような建て方をされていて、建物を建てるのに杭が入っていないんです。それからうちの博物館は地下水を使っていて、飲み水もトイレもすべて地下水です。そういったところから、エコミュージアムかなと思ったのですが、今回、名張市さんの取り組み、セントヨゼフ学園の取り組み、三重中・高校の取り組み等を拝見していて感動し、これがESDなんだ、これで良いんだと思ったんです。始めて実感として分り、ESDの理解に対して目から鱗が取れたという感じでした。

自分達で調べて考えて体感して理解する。私どもは、明和町の小中学校の皆さんに遺跡に来て発掘体験をして頂いたり博物館を見学する等、学校と連携した教育活動を行っていますが、自分達の考え方の中にESDの理念を取り入れ整理したいと思っています。他の事業団体の取り組みでも、すでに自分達で取組んで

いることが ESD だと気づいていないようなことが沢山あると思います。ESD というものが自然に皆に意識されるように、もっと外に出て PR する必要があるのではないかなと思います。私どもが普段、取組んでいる事業やイベントの中で「ESD の理念でやっています」という PR をして活動していけば良いのではないかなと思います。

もう一つは、このような発表会を今回は三重大学で開催していただきましたが、もっと色々な場所で開催し、地元の方が参加しやすいようにしてはどうかと思います。自分達が取り組んでいる活動の良さは、地域の良さもそうなんですが、取組んでいる方には分らないんです。自分達の活動を外部から評価してもらう、「すごく良いんだ、この取組みは」と評価してもらうことが、「自分達もできるんだ」と、垣根を取り除き、一歩踏み出すきっかけになるのではと思いました。10 月に平安時代初期の建物、斎宮寮が立ち上がります。斎宮寮とは、今の霞が関の省庁の一つに当たります。9 月 26 日にお披露目をし、史跡公園全体は 10 月 24 日にオープンしますが、その建物を是非、お使いいただければと思います。その建物は遺構を傷めないように工夫して建て、建築基準法にも合致しており、中へ入って頂いても大丈夫ですので、是非お使いいただいて発表会を開催して頂きたいと思います。

朴 恵淑：ありがとうございました。地域と共にという非常に良いキーワードに頂きました。坪田さんは何を隠そう実は名張の人が亀山のために今、活動しています。あたり前になっていることを外の目線で起こしているわけなんです。特に三重大学も非常にお世話になっているのは韓国から来ている学生達のインターンシップには必ず、関宿に連れて行って、地元でお菓子を作っている職人さんから一生懸命、説明もらうことで海外との架け橋等をしてもらっています。

ESD は繋ぐ役割をしている立場から見た時に、韓国の若者が最初は何も分らない状態で来て、何日間、一緒にいることで様子が変わることを目の前で見えて、これも全部 ESD になるだろうと思うのですが、中々、ESD を分かってくれない教育委員会もあります。



亀山市総合環境研究センター
事務局長 坪田 公児

坪田 公児：亀山市総合環境研究センターでは 10 年前から朴先生からご指導をいただいて ESD をやっております。対象は幼稚園から大人までです。私たち亀山市民大学キラリは亀山市のシンクタンクの一つとして人材育成を目標に、環境、文化、福祉などに関する講座を開催しています。その中で特に嬉しいのは企業とのマッチングで、親子で工場見学をし、環境を守ることや命の大切さについて知らず知らずに子ども達が覚えていて、感想文を頂いた時です。朴先生が読まれたらポロロンと泣くのかなと思うぐらいです。また、毎年、インターンシップを行っておりまして、韓国の学生と一緒に地域の人と関わり、亀山市の良い所を見てもらっています。

今年も 4 人の留学生に来ていただいて、日本の歴史や文化に関するお話をしました。そうすると、韓国はこんな歴史があつてねというようなことで、心を開いていろんな交流ができます。その際、地域の市民大学キラリの市民記者とも世代間交流をしていただき、日韓の交流を深めるなど、国際交流の活性化のために活動しています。

朴 恵淑：ありがとうございました。民間レベルの交流はESDの大事な部分ですのでこれからもお願いします。最後になりましたが、佐野さんは地域のお兄さんみたいな人で内の学生とも一緒に活動しています。ESDの観点からも、自然というものをどう考えればよいのか教えていただければと思います。



三重県松阪地域防災総合事務所
主幹 佐野 茂樹

佐野 茂樹：私自身、環境学習に関わらせて頂いたのは、十数年前になるのですが、その時は水産部局に私は居まして、魚の目から見た環境学習を提案させてもらい、今では考えられないような予算が付いたことがございました。一緒に取組を行わせて頂いた方々、特に亀山、鈴鹿の辺りで現在もご健在で、地元で頑張っている方もいらっしゃると思います。小学校で5校ぐらいですかね、私が訪問し、各学校の先生とともに環境教育を行っていたということがございます。複数の学校と一緒に最後に集まって発表会をしようかというようなこともありまして。その時は移動手段の支援を行政でさせて

頂きました。三重県教育委員会とも連携した形式で開催させて頂きました。数年前には、教育委員会さんからご紹介のありました「キッズISO」という取組みについて、企業を訪問して、取り組んで頂けないかという話をさせて頂いたことがありました。

色々な角度から環境学習に関わっているのですが、学校だけでなく、一般の企業との連携は少し少ないような印象を受けているのですが、企業が積極的に参加して何かをしてくれるというような部分が、これから進めばよいと感じているところです。企業でも、四日市の霞ヶ浦のコンビナートが集まって取り組んでいるKIEP'Sでは、環境に対して前向きに考えていこうと考えているようです。環境教育も取組みたいと話しているような状況がございます。その立ち上げから参加させていただいています。企業の方も、企業概念の中で環境教育を行うという視点はなかったもので、どうしたらいいんだろうということで、行政が間に入って一緒に組み立てていこうということで計画しています。従業員への環境教育では、エコ通勤に取り組んでいるところです。複数の13、14社の会社が参加しています。乗り合せてバスに乗ろうという取組もしています。古紙回収や循環型社会を目指そう等、色々な観点で、垣根を作らずに自由やろうということが非常に面白い。その活動資金は、廃棄物として棄てていた古紙を、有価物として販売し、運転資金としている取り組みもあります。アクア松阪創造協議会の立ち上げに関わらせて頂いた中では、色々な良い取組みや場所が松阪にはあります。松名瀬海岸という場所があるのですが、市職員の環境に携わっている職員でさえ「そんなところあるの」という認識でしかない。地域にとっても環境と良い所だといいいながら、皆さん、環境に対して取組を進める姿勢が少ないのではないかと感じました。確かにレジ袋の削減は、皆さん団結が強く推進していますが、特に水環境では浄化槽等のメンテナンスや点検、分析をしていない等、できていない、適切でない部分も沢山ありまして、皆さんと一緒に取り組んでいく必要があると考えています。浄化槽の法定検査を1年に1回しなければいけないですけど、旧松阪市内で行われているのは2割程度なんですね。法律で決っていてもそのような現状なのです。

学校教育では三重中学校が非常に熱心に環境教育を行ってみえて、非常に良いところがあります。10何年前も松阪の松名瀬をピックアップし、活動させて頂いた経緯がございまして、私も松名瀬は非常に良い

場所であり、継続して取組がつづいていく必要があると思い企画を作らせて頂きました。この企画の方も、今やらせていただいているのは予算ゼロです。皆さん自前で、朴先生にもお願いして、旅費と報償費すべて無しで来ていただきながら、皆さんで前向きに作っていかうというようなスタンスで行っていますので、何というかやらされ感で皆さん来ているわけではなくて、主体的な意見がどんどん出てくると。そこが非常に面白いところかなと思います。12月にアンケートを行った結果では、学校の先生の約67%の方が環境教育をやってみたいと考えてみえます。

一番の障害になっているのは、その先生の知識や教える立場になった時にどのように教育したらいいのかということが3分の1ぐらい占めている現状です。後は、どこかフィールドワークに行きたいけど、移動する手段がない、そのサポートがほしい等があります。子どもを安全に見守ってくれるようなサポートが欲しいな等の意見もありました。当たり前のことなんですけれど、簡単なところからスタートさせていけば良いのかなと思っています。このアンケートの中で、ESDって事がわかりづらいので、ESDだからやるのではなくて、地域を何とかしていくために活動していくという事で推進しています。何のために活動するのかは、学校としても見えない部分があるのかなと思います。接点を作るべきところはあるのかなと思っています。行政というものが入っていったら一緒に繋げて行くような取り組みになれば良いと思っています。企業の方でも、社として従業員への環境教育を行いますというような話も頂いております。ラムサール条約の登録があるから皆で頑張るというよりも、皆さんで取り組んだ結果、ラムサール条約につながったというストーリーを皆さんと一緒に作っていくことが、これからの2年間に考えられることなのかなと思っています。地域のがんばる方をどんどん増やしていくという形の、私達は支援をさせてもらえたら、ありがたいと思っています。企業さんに参加頂けるような仕組みを、私共も考えさせて頂いておりますので、利用していただければ良いのかと思っています。手探りではあるのですが、皆さんと一緒にやっていかうと思っています。

朴 恵淑：ありがとうございます。

谷岡 経津子：ESDという言葉が難しいと避けて通ると、いつまで経っても定着しないので別の言葉に変えてもらっても良いと思います。ESDというのは頭の中に刻む方式でやって欲しい。

佐野 茂樹：取り掛かる前はESDの言葉は出さないでおこうかと考えています。取りかかってからそうであつたというのでよいのではないのでしょうか。

谷岡 経津子：わかりやすい言葉にしたら各市町から参加があつた。わかりやすい言葉にすると親も地域も参加してきます。ユネスコのマークは、パルテノン神殿のマークですね。すごいことです。ユネスコスクールのお墨付きのプレートを三菱UFJが協力して作って下さっていることを言うと、各学校も興味を持てくださるんですよ。校舎の入口にマークを置くことで、その学校のグレードが上がるんですよ。そういうことをもっと進めてほしいというのが1点です。ユネスコスクールパスポートというものを今、日本ユネスコ協会連盟は広めています。このパルテノン神殿は本部の意向もあり気安く使わせてくれません。日本ユネスコ協会連盟の鳩マークのついたパスポートをユネスコスクールの加盟の小学校が持っています。花を植えた、ゴミを拾った等という活動で1個スタンプを押してもらいますよ。そのスタンプがいっぱいになったら表彰していただくとか、そういう制度がもう始まっておりまして、結構、全国

的に取り組んでおります。パスポートの活用方法があるんだということを、今日ぜひご理解いただきましたかった。

それからもう一点は、書き損じハガキの回収です。書き損じハガキを、日本ユネスコ協会連盟では換金することによって、資金を発展途上国の子供達に送るんです。読み書きができない子供達は沢山います。世界の成人のおよそ5人に1人は読み書きができないんですよ。書き損じハガキを10枚集めるだけで換金して送ると、それで子供の1カ月分の食糧が賄えるとか、ワクチンが買えるとか、いろんなことはまだ知られていません。ユネスコスクールを取得された学校では、取りあえず書き損じハガキから集めようというところでやっております。亀山の白川小学校などは700枚集めてくださいます。やっているところはやっているんですよね。それを集めて三重県教育委員会の社会教育課へ送っていただいても良いし、日本ユネスコ協会連盟に送ってもらっても良いです。送ってもらいますと日本ユネスコ協会連盟から学校あてに感謝状が届くようになっているんです。今日是非、皆さんにお伝えしたかったと思います。

朴 恵淑：ありがとうございました。そろそろまとめに入りたいと思います。皆様からいただいた貴重なご意見を、平成27年度の「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」のところに反映させていただいて、活動をして、またこれはどうなっているのかというのを、またこの運営評価委員会で報告と意見をいただけたらありがたいと思っております。

末永く付き合っていいただければと思っています。本当に長時間になりましたけど有意義な時間だったと思いますし、皆様からの熱い声援に応えるべく私達スタッフはまたがんばらせていただきますので、いつでも遠慮なく教えて下さい。いつ、そこで何がある、こういうことはどうしたら良い、という形で、どんなことでもご連絡いただければ対応させていただきます。これを持って平成26年度ユネスコ活動の補助金のグローバル人材の育成に向けたESDの推進事業「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」運営・評価委員会を終わらせていただきます。ご協力、本当にありがとうございました。



資料 1. 「ESD in 三重 2014」 報告書

平成 26 年 11 月 7 日（金）から 11 月 12 日（水）の間に開催した『ESD in 三重 2014～アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース世界会議～』について、下記のとおり、報告します。

第 1 日目（11 月 7 日）は、アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習として本学の「附属練習船 勢水丸」によるベントスネット（底生生物採集漁具）で採取した海洋生物を観察し、海の博物館や海女小屋を視察することで、海と人との関わり、自然を守るために何をすべきかを考える機会となりました。



勢水丸



勢水丸



海の博物館



海の博物館



海女小屋



海女小屋

第 2 日目（11 月 8 日）前半は、松名瀬干潟において清掃活動及び干潟に生息する生物の環境学習を行い、参加者は自然保護がよりよい環境を作るための第一歩であること学び、後半は、斎宮歴史博物館で日本の文化が持つすばらしさを体験するとともに、歴史、文化遺産の保全、継承の重要性を学びました。



松名瀬干潟清掃



松名瀬干潟清掃



松名瀬干潟清掃



松名瀬干潟環境学習



斎宮歴史博物館



斎宮歴史博物館

第3日目（11月9日）前半は、三重県総合博物館において、三重県の文化・環境を学び、後半は、防災学習、生物多様性、地球温暖化（気候変動）、歴史文化遺産、国際理解の5課題を10グループに分かれて分科会で検討し、日本を含む世界のさまざまな問題及びその解決策について考え、グループ別での発表を行い、それらのことをまとめ、「アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース宣言」を作成しました。



三重県総合博物館



三重県総合博物館



分科会

第4日目（11月10日）は、本学環境・情報科学館1階ホールにおいて、「アジア・太平洋環境コンソーシアム ESD 国際シンポジウム」を開催しました。

当日は、内田淳正三重大学長の挨拶に始まり、朴恵淑理事・副学長による「ESD in 三重2014」の成果報告が行われ、その後、「環境コンテスト表彰式」及び「ECO アイデア表彰式」が行われました。



学長挨拶



朴理事・副学長成果報告



環境コンテスト表彰式

その後、基調講演Ⅰとして、岡山県立大学デザイン学部森下眞行教授と同学部学生による「瀬戸内海・犬島における ESD 教育プログラムの開発～ワークショップ事例発表：いぬじま探検隊～」の講演と事例発表があり、また、基調講演Ⅱとして、リーダーシップアカデミーTACL 代表ピーターD. ピーダーセン氏による「食とエネルギーの環境大国デンマークの経験に学ぶ」の講演が行われました。

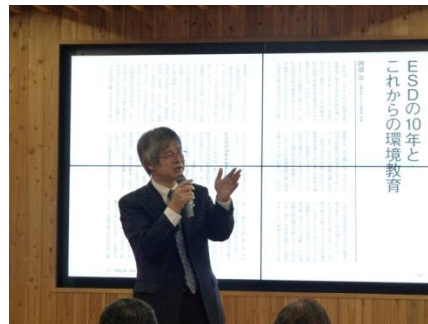
国際シンポジウム後半では、立教大学社会学部阿部治教授による「日本における国連 ESD の 10 年の成果・課題と今後の展望」について記念講演が行われました。また、前日に実施した分科会の発表がグループ毎に行われ、まとめられた「アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース宣言」を日本語と英語で宣言し、閉会しました。



基調講演Ⅰ：森下眞行教授



基調講演Ⅱ
ピーターD. ピーダーセン氏



記念講演：阿部治教授



「アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース宣言」



分科会発表



「アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース宣言」

また、『ESD ユネスコ世界会議』（11月10日～11月12日）の併催イベントとして名古屋国際会議場内と屋外の2カ所で三重大がユネスコ世界会議に合わせ、「ESDに関するユネスコ世界会議」あいち・なごや支援実行委員会パートナーシップ事業として実施した「ESD in 三重 2014」についての ESD プログラムの紹介や活動などを報告し、「アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース宣言」を日本語と英語で公表しました。



ESD 交流フェスタブース出展



名古屋国際会議場パネル展示



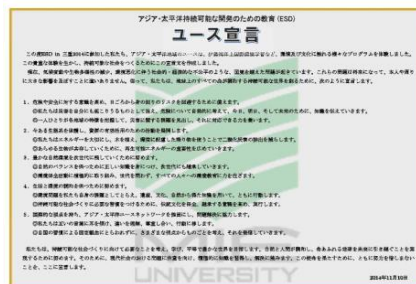
三重大大学セミナー：朴理事・副学長



三重大学セミナー：分科会発表



三重大学セミナー：分科会発表



ユース宣言文



「アジア・太平洋持続可能な開発のための教育(ESD)ユース宣言」

このイベントには、世界の 19 カ国の約 210 名が参加し、文化・年齢の違いを越えた交流の中で、環境保全、国際理解、生物多様性、伝統継承に関する ESD プログラムを体験し、参加者は、これらの重要性を認識し、持続可能な社会づくりに向けて次世代を担う人材育成の一助となりました。

三重大学は、これらの「ESD in 三重 2014」実施の成果等を公表し、本学の事業モデルを他団体に提供することで、なお、一層の ESD、ユネスコスクール活動を推進いたします。

資料 1 . Report of “ESD in Mie 2014”

We held a “ESD in Mie 2014” *World Conference on Education for Sustainable Development* with the aim to develop the knowledge regarding the subject of ESD (Education for Sustainable Development) for 7days (November 6th to November 12th, 2014).

Day 1 (November 7th), participants visited Matsusaka harbor and boarded the SEISUIMARU as Asia and the Pacific Ocean Youth Ise Bay offshore international environmental learning. They even experienced the Beam-trawl sampling with navigator on the ship. In the afternoon, they had tour to the TOBA Sea-Folk Museum and Ama hut. These experiences were good opportunity where they discussed about protecting the environment.



Seisui Maru



Seisui Maru



TOBA Sea-Folk-Museum



TOBA Sea-Folk-Museum



Ama hut



Ama hut

Day 2 (8th), participants visited MATSUNASE tidal flat, they cleaned up around beach, and then they had an environmental learning about biodiversity who live in tidal flat. In the afternoon, they went to SAIKU Historical Museum. They learnt about the values of inheritance about culture and history.



Clean up the MATSUNASE tidal flat





Environmental learning of
MATSUNASE tidal flat



SAIKU Historical Museum



SAIKU Historical Museum

Day 3 (9th), participants went to Mie Prefectural Museum and learnt about culture and environment about Mie. In the afternoon, participants were separated in groups according to the various topics given (viz. Education for disaster, Protection of environment and biodiversity, Global warming, International understanding, Historic and Cultural heritage) in “Separate meeting”. In the Separate meeting, first, they discussed about various international issues and their measures. Then, they had a presentation about what we have to do for better environment. Finally, compiled an opinion regarding Youth Declaration to contribute to the establishment of a sustainable society.



Mie Prefectural Museum



Mie Prefectural Museum



Separate meeting

Day 4 (9th), we hold an “Asia pacific environment consortium ESD international symposium” in Mie Environmental & Informational Platform. On this day, initially the opening ceremony was done by Mr. Atsumasa Uchida, the president of Mie University. Then the accomplishment report was held by Hye-Sook Park of executive vice-president of Mie University. And then, we threw the Awards ceremony for environment contest and Eco Idea.



Opening ceremony



Accomplishment report



Awards ceremony for environment
contest

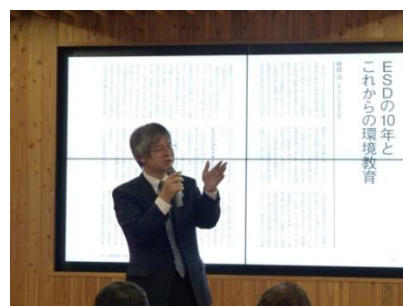
After Awards ceremony, we held a key-note speech by two speakers. The first key-note speech was “A development of ESD Program at Inujima in the Seto Island Sea” by Prof. Masayuki Morishita and students of Department of Design for Technology Faculty of design Okayama Prefectural University. Second speaker was Mr. Peter David Pedersen who is representative of Academic of leadership TACL. The title was “Learn from Denmark’s experience which is environmental superpower about food and energy”. In the afternoon, Prof. Osamu Abe who belongs to Department of contemporary culture and society of Rikkyo University had a commemorative speech about “Achievements and problems of ESD in Japan in past 10 years”. And then, 10 groups of participants gave presentations about 5 themes similar to the day before. In the end, participants released Youth Declaration by Japanese and English.



Key-note speech I
Prof. Masayuki Morishita



Key-note speech II
Mr. Peter David Pedersen



Commemorative speech
Prof. Osamu Abe



Youth Declaration “Asia Pacific
Education for Sustainable
Development”



Presentation of separate meeting



Youth Declaration “Asia Pacific
Education for Sustainable
Development”

Also, November 10th to 12th, booth and panel exhibited as combining events of World conference on Education for Sustainable Development at NAGOYA CONGRESS CENTER. In addition, “Mie University seminar” held in the same place, we introduced about ESD program and our activities. On the closing note, participants released Youth Declaration for contribute to the establishment of a sustainable society by Japanese and English.



Booth at ESD exchange - festival



Exhibit panel at NAGOYA
CONGRESS CENTER



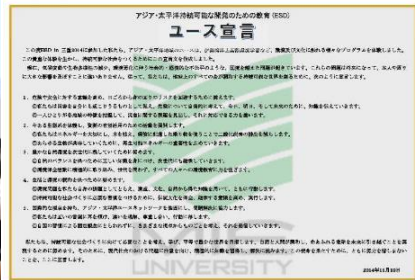
Mie University Seminar



Mie University Seminar



Mie University Seminar



Youth Declaration
“Asia Pacific Education for
Sustainable Development”



Youth Declaration “Asia Pacific Education for Sustainable Development”

210 people from 19 nation were participated in this event. The activities included experience of ESD programs on protection of environment and biodiversity, international understanding, and preservation and inheritance of culture and tradition. We hope the students will be aware of, thinking, and learning about the necessity of the future sustainable society and to discover own roles as a youth who has responsibility for the future, through these activities,

Mie University made public accomplishments of the “ESD in Mie 2014”. Also, we will pursue activities related to ESD project by providing the business models to other organization.

資料 2. 『「ESD in 三重 2014」国際会議』報告書

本学が平成 26 年 12 月 6 日（土）に開催した『三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム 2014 「ESD in 三重 2014」国際会議～ESD に関するユネスコ世界会議の成果・今後の展望～』について報告します。

『「ESD in 三重 2014」国際会議』は、11 月 7 日から 12 日の期間に本学が主催した「ESD in 三重 2014」の成果を公表し、ESD に関するユネスコ世界会議の成果について学び、今後の展望について考える機会にすると共に、県内のユネスコスクールなどの活動事例を共有し、県内ユネスコスクール間のネットワークの構築を促進することを目的に開催いたしました。

当日は、内田淳正三重大学長の挨拶から始まり、朴恵淑理事・副学長による「ESD in 三重 2014」の成果報告が行われました。そして、「ESD in 三重 2014」の活動を取めた映像を 15 分間上映し、ユースによってまとめられた「アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース宣言」を日本語と英語で公表しました。



開会挨拶
内田淳正三重大学長



「ESD in 三重 2014」成果報告
朴恵淑三重大学理事・副学長



「アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース宣言」

その後、独立行政法人 理化学研究所 理事長特別補佐（前文部科学省国際統括官）加藤重治氏による基調講演「ユネスコ ESD 世界会議～成果と ESD の新たな旅立ち～」が行われました。続いて、現在加盟申請中の学校を含む、県内の小・中・高・大学のユネスコスクールの児童・生徒・学生自身により、以下の活動事例報告が行われました。



基調講演：加藤重治氏
独立行政法人理化学研究所 理事長特別補佐
（前文部科学省国際統括官）



名張市立薦原小学校



学校法人梅村学園
三重中学校・三重高等学校

○名張市立薦原小学校：

1年生から6年生が行っているESDの学習

○学校法人梅村学園三重中学校・三重高等学校：

「松名瀬海岸をフィールドとした総合学習（環境）及びクラブ活動（生物相調査）等」

○鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校：「海岸清掃、自然保護の取り組み」

○学校法人セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校：募金活動「ウォーカソン」

○三重大学教育学部附属中学校：

「附属の特性を生かした取り組み－天津実験中学校との交流－」

○三重大学ユネスコスクール学生委員会

- ・三重大学環境 ISO 学生委員会：環境 ISO 学生委員会の活動紹介
- ・三重大学災害ボランティア支援団体（MUS-net）：MUS-net の活動紹介
- ・防災学習部会（※）：タウンウォッチングを用いた防災学習の重要性

※「ESD in 三重 2014」にて行われた分科会テーマの一つ



鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校



学校法人セントヨゼフ女子学園
高等学校・中学校



三重大学教育学部附属中学校



三重大学環境 ISO 学生委員会



三重大学災害ボランティア支援団体
（MUS-net）



防災学習部会

本シンポジウムには、小・中・高・大学に在籍する児童・生徒・学生をはじめ、教育機関及び教育行政関係者、社会教育施設、県内ユネスコ協会、NGO／NPO など 150 名の方に参加いただき、ESD の今後の展望や、県内の様々なユネスコスクール活動事例を共有し、学ぶ機会となりました。参加者からは、活動の参考になった、地域でこういった活動に取り組んでいきたいという声もいただきました。

本学はこれからも、ESD のさらなる発展・浸透に寄与し、県内のユネスコスクール活動の輪が広がるような取組みを推進いたします。

資料 2 . Report of “ESD in Mie 2014” International Conference

On December 6th 2014, Mie University convened the “Mie University UNESCO workshop and symposium 2014 of ““ESD in Mie 2014’International conference” ~Achievements and vision of UNESCO International conference ~”.

The symposium was a very good opportunity to think about what to be done in order to create a sustainable society. Also, we report the accomplishment of the event “ESD in Mie 2014” from November 6th to November 12th. In addition, our aim was to make network between The UNESCO Associated Schools in MIE and sharing the activities in this symposium.

The event contained opening ceremony held by Atsumasa Uchida, president of Mie University on the first day, accomplishment report of “ESD in Mie 2014” was held by Hye-Sook Park, executive vice-president of Mie University. In addition, we played DVD which contained some memorable moments of this event. After this, participants released Youth Declaration for contribution to the establishment of a sustainable society in both languages viz., Japanese and English.



Opening ceremony



Accomplishment report of
“ESD in Mie 2014”



Youth Declaration
“Asia Pacific Education for Sustainable
Development”

Next, we held a key-note speech by Shigeharu KATO who is special advisor to the president of RIKEN (A former Office of the Director- General for International Affairs of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology).

The title was “World Conference on ESD ~ Achievements and New departure of ESD ~”. And then, The UNESCO Associated Schools of MIE students delivered a talk on their activities.



Key-note speech Shigeharu KATO
Special advisor to the president of
REKEN (A former Office of the
Director- General for International
Affairs of Ministry of Education,
Culture, Sports, Science and
Technology)



KOMOHARA Elementary School



Mie Junior & Senior High School

- KOMOHARA Elementary School
- MIE Junior & Senior High School
- TSUDUMIGAURA Junior School
- SAINT JOSEPH JOSHI GAKUEN
- Junior High School Attached to Faculty of Education, Mie University
- The UNESCO Associated Schools Project Network (ASP-Net) Students committee of Mie University
 - The Environmental ISO Student Committee of Mie University
 - Mie University Saigai/Support - network (MUS—net)
 - Group of “Education for disaster”



TSUDUMIGAURA Junior School



SAINT JOSEPH JOSHI GAKUEN



Junior high school attached to the Mie University Department of Education



The Environmental ISO Student Committee of Mie University



Mie University Saigai/Support - network (MUS—net)



Group of “Education for disaster”

150 students from elementary, junior high-school, high-school, and undergraduate students had participated in this symposium in addition to many agencies such as educational agency, education administration, public-awareness-raising, NGO, NPO, and MIE UNESCO Association.

This was a good chance to learn and share the other UNESCO Associated School’s activities. Also, we got a lot of feedbacks from participants such as “I want to undertake the task of ESD activity” and “It is informative guide to our projects”

We contribute to the further development of ESD and expand the wave of exchange in MIE.

資料 3. 平成 26 年度ユネスコ活動費補助金

グローバル人材の育成に向けた ESD 推進事業報告書

1. 事業概要

(1) 国内外のユネスコスクールとの交流

平成26年は、11月に「ESDに関するユネスコ世界会議」のパートナーシップ事業として「ESD in 三重 2014」を開催する。

(A)「ESD in 三重 2014」と連携し、三重県内16校のユネスコスクールの交流機会を創出するために、「三重大学ユネスコスクール研修会・シンポジウム」を11月に開催し、各学校で行っているユネスコスクール活動の情報共有を図る。海外の先進事例や地域特性の事例など交流材料とするために、韓国、モンゴル国、ロシア連邦などからプロフェッサーや要人等をアドバイザーとして招聘する。

三重大学では、11月6日から12日まで、「ESDに関するユネスコ世界会議」のパートナーシップ事業として「ESD in 三重 2014」を開催し、県内小・中・高校のユネスコスクール（加盟申請中含む）を中心とする10校（注1）から57名の児童・生徒に参加いただき、総勢19カ国210人の参加者の交流の機会を創出することができた。参加者は様々なESDプログラムを体験し、ESDについて深く学び、ユース宣言を作成した。さらに、12月6日に「三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム」を開催し、ユネスコスクールに加盟している各学校で行っている活動を報告し、情報を共有するとともに、三重県内6校のユネスコスクール（注2）と新たに加盟登録を検討している3校（注3）との交流機会を創出することができた。

また、「ESD in 三重 2014」と「三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム」に参加できなかった県内ユネスコスクールには、報告書を送付し、情報共有を図っている。

なお、「ESD in 三重 2014」開催にあたり、海外の先進事例をご紹介いただくため、韓国・世宗大学より朴教授を、デンマークよりピーダー・ピーダーセン氏を、地域特性の事例などをご紹介いただくため、岡山県立大学より森下眞行先生を招聘し、交流材料とした。

注1) ①三重中学校・高等学校、②セントヨゼフ女子学園、③三重大学附属中学校、④名張市立北中学校、⑤名張市立薦原小学校、⑥名張市立蔵持小学校、⑦鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校、⑧鈴鹿市立白子中学校（1名）、⑨紀北町立三浦小学校（1名）、⑩三重県立久居農林高校（4名）

注2) 「三重県内6校のユネスコスクール」：①名張市立薦原小学校、②三重中学校・高等学校、③鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校、④セントヨゼフ女子学園、⑤三重大学附属中学校、⑥三重大学

注3) 「新たに加盟登録を希望する3校」：①亀山市立白川小学校、②亀山市立野登小学校、③三重県立久居農林高校



三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム2014「ESD in 三重 2014」国際会議（平成26年12月6日）

(B)「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催に合わせ、ユネスコスクールネットワーク(ASPNet)及びユネスコスクール大学間ネットワーク(ASPUnivNet)と連携体制を整え連携を図る。

平成26年度は、ASPUnivNetの平成25年度評価検討会議・第1回連絡会議(7月5日)、第2回連絡会議(11月7日)、第3回連絡会議(1月25日)、公開シンポジウム「学校教育におけるESDの学習評価のありかた」(1月25日)やユネスコアジア文化センター(ACCU)が主催する「ユネスコスクール地域ネットワーク連絡会議」(8月26日・27日)、「ESD・ユネスコスクール出前講師派遣の仕組み作り検討会議」(平成27年1月19日・20日)、に出席し、ユネスコスクールネットワーク(ASPNet)及びユネスコスクール大学間ネットワーク(ASPUnivNet)との連携を図っている。

(C)〔生物多様性〕：準備7月と10月、実施8月と11月

自然環境と生物、人間との関わりを学ぶの場とするため松阪市の松名瀬干潟をモデル地域に設定し、三重大学、県内ユネスコスクール校、三重県・松阪市、松阪ユネスコ協会と、トヨタ自動車及び伊勢新聞を含めた、産官学民連携による、生物多様性に関連したESDプログラムを8月と11月に実施する。

計画どおり、松阪市の松名瀬干潟をモデル地域に設定し、7月より三重大学、県内ユネスコスクール校、三重県、松阪市、松阪ユネスコ協会と生物多様性に関連したESDプログラムについて検討を行った上で、トヨタ自動車、伊勢新聞を含めた産官学民連携にて、ESDプログラムを2回(第1回：8月24日、参加者350名 第2回：11月8日、参加者400名)実施した。

なお、実施したESDプログラムは、松名瀬干潟でのこれまでの地元の取組みや自然の特色を活かした「環境学習」と環境を守るための実践という位置づけで「清掃活動」を組み合わせたもので、産官学民の幅広い知見により、自然環境保全に対する理解を深めることができるプログラムとなった。



松名瀬海岸清掃 左：平成26年8月24日 中央：平成26年11月8日 右：環境学習 平成26年11月8日

(D)〔エネルギー学習〕／〔気候変動〕：準備9月～12月、実施1月

ユネスコスクールなどを対象としたESDプログラムとして、海底ケーブルによる電力供給の仕組み、風力発電、太陽光発電など実践的エネルギー教育を、三重県鳥羽市の離島の答志島から神島をフィールドとして開催し、中部電力など企業と交流を図る。

9月より、中部電力株式会社とエネルギー学習のESDプログラムについて検討を行い、今年度はテーマを「エネルギーの多様性」とし、本学学生や今後三重県地域においてESDプログラムを支援していただく立場である環境リーダー(地球温暖化防止活動推進員)を対象に、12月20日に浜岡原子力発電所の見学会を実施した。

また平成27年3月には、三重大学において「エネルギー環境教育成果報告会」を開

催し、同プログラム参加者による成果発表を予定している。

なお、本年度の成果は、ESDプログラムのブラッシュアップのための検討材料とし、引き続き中部電力と連携して、風力発電・太陽光発電など自然エネルギーへの理解や海底ケーブルによる電力供給の仕組みなど実践的エネルギー教育プログラムを構築する。



平成25年度エネルギー環境教育成果報告会（平成25年3月15日）

(E)〔世界遺産や地域の文化財等に関する学習〕／〔国際理解学習〕：体制整備8月～三重オリジナルの海女文化をテーマに学びの場とするため鳥羽市及び志摩市をモデル地域と設定し、海の博物館及び三重県総合博物館、斎宮歴史博物館との連携による海女文化のESDプログラムの実施体制を整えて、ESDプログラムを構築する。

8月より、海女文化について造形の深い海の博物館（鳥羽市）と海女文化をテーマにしたESDプログラムについて検討を行い、鳥羽市をモデル地域に設定し、勢水丸による海洋教育との組み合わせや三重県総合博物館、斎宮歴史博物館との連携により古くからの生活における海と人間との関係性や里海の利活用など、海女文化という無形民俗文化財について総合的に学ぶことができるESDプログラムを構築した。

なお、同プログラムは11月に開催した「ESD in 三重 2014」にて試行的に実施しており、今後、同プログラム構築に協力いただいた関係者と共にブラッシュアップを図る予定である。



左：海の博物館



右：海女小屋（国崎）（平成26年11月7日）

(F)〔環境学習〕／〔国際理解学習〕／〔防災学習〕：プログラム構築6月～文化と産業をテーマに学びの場とするため亀山市関宿をモデル地域と設定し、亀山ユネスコ協会と連携し、総合的な教育プログラムを構築する実施体制を整えて、ESDプログラムを構築する。

6月（8月）より、関宿（亀山市）をモデル地域と設定し、文化と産業をテーマとしたESDプログラム構築のため、亀山ユネスコ協会や「NPO関宿」、亀山市総合環境研究センターと連携し、ESDプログラムの実施体制の整備を行い、協働してESDプログラム案を策定した。

なお、12月には三重大学留学生を含むユネスコスクール学生委員会の学生と共に策定したESDプログラムのシミュレーションを行っており、今後、同プログラム構築に協力いただいた関係者と共にブラッシュアップを図る予定である。



関宿（平成26年12月27日）

(G)〔国際理解学習〕／〔環境学習〕：準備7月～10月、実施11月

「ESD in 三重 2014」において、三重大学の練習船「勢水丸」を用いた海洋生物多様性学習を200名の国内外のユネスコスクールの学生へ実施する。海洋生物多様性学習の実施には、三重大学ユネスコスクール学生委員会の学生をファシリテーターとして関わらせ、国内外の小中高校生とのコミュニケーションを図り国際理解（交流）のESDを実施する。

7月より、三重大学附属練習船「勢水丸」と海洋生物多様性学習をテーマにしたESDプログラムについて検討を行い、11月に県内ユネスコスクール児童・生徒・学生を含む19カ国210名が参加する「ESD in 三重 2014」において、同ESDプログラムを実施した。

実施の際、三重大学ユネスコスクール学生委員会の学生がファシリテーターとして関わり、参加する国内外の中・高・大学生が互いに国際理解と交流を深められるよう、コミュニケーションの促進を図った。



勢水丸（平成26年11月7日）

(H)〔世界遺産や地域の文化財等に関する学習〕：実施9月～

ユネスコ世界遺産の「熊野古道」の歴史、文化を知るESDプログラムを構築、実施する。熊野市のユネスコスクールの本木高校が実施している英語によるガイド活動を三重大学と連携し充実を図る。

7月より、本木高校（熊野市）を訪問し、現在のユネスコ世界遺産「熊野古道」に関する取組みについて聞き取りを行うと共に、今後のESDプログラム構築に関する打ち合わせを行った。

今後、本木高校では現地ボランティアとも連携し、「熊野古道」での英語でのガイド活動の充実を図ろうとしているため、三重大学の国際交流などのノウハウ

を活かして、地域とも連携したESDプログラムの構築を図っていく。

なお、今年度は本学が主催する「環境コンテスト」にも積極的に応募していただくなど、連携・実施の体制づくりが整いつつある。

(I)〔国際理解学習〕：プログラム見直し10月～

津市のユネスコスクールの三重大学教育学部附属中学校が実施している、中国天津師範大学附属中学校との国際理解（教育）プログラムを発展させるために見直しを行う。

7月より、三重大学教育学部附属中学校を訪問し、現在実施している中国天津実験中学校との国際理解（教育）プログラムについて聞き取りを行うと共に、今後のプログラムの改善と展開について打ち合わせを行った。

また、12月には『「ESD in 三重 2014」国際会議』において、同プログラムに参加した生徒による成果報告の機会を設け、「発表」による学びの深まりを体験していただいた。

本年度の成果については、今後のブラッシュアップのための検討材料とし、引き続き三重大学教育学部附属中学校と連携して、国際理解（教育）プログラムの改善を図る。

(J)〔国際理解学習〕：準備検討7月～

名張市の9のユネスコスクールが名張ユネスコ協会の協力を得て、韓国水原市のユネスコスクールと実施している、絵の国際交流展示会を発展させて、ESDプログラムとして構築する検討を始める。

7月より、本学が企画・実施する「環境コンテスト」を切り口に、韓国水原市のユネスコスクールと実施している絵の国際交流展示会について、名張市教育委員会および名張ユネスコ協会より聞き取りを行うと共に、今後のESDプログラムの構築について意見交換を行った。

なお、「環境コンテスト」や「ESD in 三重 2014」への参加を通してESDプログラム構築体制が整いつつあるため、今後も継続して検討を進める。



三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム「ESD in 三重 2014」国際会議（平成26年12月6日）

(K)〔国際理解学習〕：検討開始8月～

韓国水原市が毎年実施している「日韓青少年環境フォーラム」に、三重県内のユネスコスクールが参加し、国際理解（交流）のできるような仕組みの検討を始める。

8月より、「日韓青少年水環境フォーラム」の主催である「水原河川流域ネットワーク」と打ち合わせを行い、韓国水原市のユネスコスクールを含む生徒・学生12名を「ESD in 三重 2014」に招待し、県内のユネスコスクールとの交流の場を創

出した。

この交流をきっかけに、県内ユネスコスクールの「日韓青少年水環境フォーラム」への参加を段階的に促すと共に、国際理解（交流）の仕組みづくりを行う。



左：勢水丸（平成26年11月7日）

右：全体会（平成26年11月9日）

(L)〔国際理解学習〕：検討開始6月～、実施11月～3月

三重大学・中国江蘇大学・タイチェンマイ大学・インドネシアボゴル農科大学との連携し国際交流を兼ねた論文発表会を目的に開催する「3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム」において、三重大学ユネスコスクール学生委員会の学生に参加させる機会を検討し実施する。

6月より検討を始め、11月に開催された「3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム」に三重大学ユネスコスクール学生委員会の学生が参加した。

(M)〔その他関連する学習〕：呼掛け開始6月～準備7月から10月、実施11月

三重大学の留学生をユネスコスクール学生委員会へ加入の呼び掛けを行い、三重県の環境や文化遺産などについて多言語で発信するツールの作成を検討する。

6月より、三重大学留学生へのユネスコスクール学生委員会へ加入呼びかけの一環として、留学生に「ESD in 三重 2014」への参加を呼びかけ、その実施過程において、三重県の環境及び世界遺産、文化財などについて理解を深めるための通訳や多言語（英語・中国語・韓国語）で発信するツールを作成していただいた。

（２）ユネスコスクール以外の学校でのESD活動の実施

ユネスコスクール以外の学校に対しても、「①国内外のユネスコスクールとの交流」で実施（記載した）するESD活動を基本に展開する。平成26年度は「ESD in 三重 2014」を実施することから、ユネスコスクール登録がまだない松阪市と鳥羽市・志摩市を重点活動地域として実施をする。

(A)〔国際理解学習〕／〔環境学習〕：準備7月～10月、実施11月

平成26年度は「ESD in 三重 2014」の開催に伴い実施する、松阪市松名瀬干潟をモデル地域とする、陸と海での生物多様性保全活動と生物多様性に関連したESDプログラムを行い、三重県・松阪市・松阪ユネスコ協会との連携に松阪市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。

7月より、松名瀬干潟（松阪市）をモデル地域に設定し、三重県・松阪市・松阪ユネスコ協会・地元・小・中・高校との連携により陸と海での生物多様性保全活動と生物多様性をテーマとするESDプログラムを構築し、「ESD in 三重 2014」として11月に実施した。

そのプロセスにおいて、連携・協力する松阪市内の中高一貫校1校（梅村学園三重中学校・高等学校）が、ESDプログラムや他のユネスコスクール加盟校との交流に刺激を受けて、「ESD in 三重 2014」終了後に加盟申請手続きを開始した。

同校は、松名瀬干潟での生物相調査をクラブ活動（創作科学部・科学技術部）として実施しており、松名瀬干潟でのESDプログラムは同校の生徒の協力の下実施している。プログラム構築の段階から関わっていただいたことが、加盟申請に向けて動き出した一因と考えられる。

今後も三重県・松阪市・松阪ユネスコ協会と連携して、松阪市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。



左・中央：町屋海岸清掃 右：町屋海岸植生観察会（平成26年9月）

(B) 〔環境学習〕／〔国際理解学習〕／〔防災学習〕：プログラム構築6月～

亀山市内の小中高校でのユネスコスクールはゼロであるが、亀山市教育委員会及び亀山ユネスコ協会と連携しながら、亀山市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。

6月（8月）より、ESDプログラム構築のため、亀山ユネスコ協会や「NPO関宿」、亀山市総合環境研究センター、シャープ亀山工場と連携し、ESDプログラムの実施体制の整備を行い、協働してESDプログラム案を策定した。

また亀山市教育委員会および亀山ユネスコ協会と連携し、亀山市内の2校（亀山市立白川小学校・亀山市立野登小学校）から加盟登録について相談を受けている。

なお、平成26年12月に開催した「三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム」にも両校の校長先生に参加していただき、県内のユネスコスクールとの交流の機会を提供すると共に、他校の活動事例等について情報提供し、加盟に向けて意欲と機運を高めていただいた。



三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム「ESD in 三重 2014」国際会議（平成26年12月6日）

(C)〔世界遺産や地域の文化財等に関する学習〕／〔国際理解学習〕：体制整備8月～平成26年度は「ESD in 三重 2014」の開催に伴い実施する、海女文化及び里海など、文化遺産と海の生物多様性保全のESDプログラムを鳥羽市と志摩市で行い、海の博物館及び三重県総合博物館、斎宮歴史博物館と連携しながら、鳥羽市と志摩市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。

8月より、海の博物館と連携して、海女文化及び里海など、文化遺産と海の生物多様性保全のESDプログラム実施について検討を進め、「ESD in 三重 2014」の開催に伴い、実施体制が整った鳥羽市において11月に実施した。

本年度の成果についてはブラッシュアップのための検討材料とし、今後、志摩市における実施体制の構築を図ると共に、鳥羽市・志摩市での小・中・高校でのユネスコスクール登録を目指す。



左：海の博物館



右：海女小屋（国崎）（平成26年11月7日）

（３）社会教育施設、青少年教育施設等との連携

社会教育施設等の連携は「①国内外のユネスコスクールとの交流」で実施（記載した）するESD活動「ESD in 三重 2014」を実施するために平成26年度は連携事業を実施する。特に平成26年度はユネスコスクール・ESDプログラムとして新たな連携先として社会教育施設に加え、産業界（企業）と連携したESDプログラムの実施に向けた検討をはじめめる。

(A)産業界との新たな連携：

三重県内の企業（（株）光機械製作所・万協製薬（株）・（株）東産業・（株）中部電力・シャープ（株）亀山工場・シャープ（株）三重工場）がCSR活動として実施できるエネルギー環境教育を中心とするESDプログラムの検討をはじめめる。

三重県内の企業（中部電力株式会社、シャープ株式会社（亀山工場、三重工場）、株式会社赤塚植物園、三重トヨペット（株）、ネットヨタ三重（株）と連携し、それぞれの企業の特色を活かしたESDプログラムについて、意見交換を行った。

今後、（株）光機械製作所・万協製薬（株）・（株）東産業などを含め、各社がCSR活動として実施できるESDプログラムの構築をめざす。

（株）光機械製作所：平成27年2月末に開催予定の意見交換会へ代表取締役社長に出席して頂き、今年度の本事業に関する外部評価と、来年度以降のESDプログラム構築に向けて意見を頂く。

万協製薬（株）：万協製薬は「キッズISO14001プログラム」を実施しており、今後環境教育に関するESDプログラムの構築に向けて検討していくことができると考えている。

(株)東産業：四日市公害の若手語り部である(株)東産業の社員の方（社長室社会事業推進担当 榊枝様）に、四日市学の授業の講師として、授業の補助をしていただいている。

中部電力（株）：平成26年12月にエネルギー環境教育の一環で、浜岡原子力発電所の見学会を実施した。本学は中部電力（株）と包括協定を結んでおり、平成19年度より継続してエネルギー環境教育協働事業を実施している。

シャープ（株）亀山工場：平成26年6月に、シャープ(株)亀山工場が作成した環境報告書の評価を三重大学が行うなど、今後の環境活動の向上とCSR活動について意見交換を行った。



シャープ(株)亀山工場との環境活動に関する座談会（平成26年6月20日）

シャープ（株）三重工場：平成26年9月に、お互いが作成した環境報告書の第三者評価を実施し、今後の活動の向上とCSR活動について意見交換を行った。



シャープ(株)三重工場との意見交換会（平成26年9月9日）

(株)赤塚植物園：平成26年10月に、赤塚植物園をフィールドとして、県内の中高生を対象とする「里山の生き物(植生・昆虫)と持続発展教育(ESD)」をテーマにした環境学習を、三重県教育委員会・(株)赤塚植物園・名古屋産業大学・三重大学の共催にて実施した。なお、三重大学環境ISO学生委員会学生が中高生のファシリテーターとして協力した。



第14回地域が応援するキャリアアップセミナー（平成26年10月4日）

トヨタカローラ三重(株)・ネッツトヨタ三重(株)：トヨタ自動車(株)が主催す「AQUA SOCIAL FES!!2014」にそれぞれ主催者として参加し、三重大学と連携し、三重大学環境ISO学生委員会が主催する松名瀬干潟での清掃活動・環境学習(8月と11月の2回実施)をサポートした。11月はESDプログラム、8月はプログラム構築のための企画として位置づけている。



左：第1回(平成26年8月24日)



右：第2回(平成26年11月8日)

(B) 社会教育施設等との連携強化：

海の博物館、三重県総合博物館、斎宮歴史博物館、公益法人三重県環境保全事業団(三重県地球温暖化防止活動推進センター)、NPO 法人亀山市総合環境研究センター、亀山ユネスコ協会、松阪ユネスコ協会、名張ユネスコ協会と企業等との連携による協働体(三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム)を創設する。

「ESD in 三重 2014」の開催を切り口に、県内の社会教育施設(海の博物館、三重県総合博物館、斎宮歴史博物館)や公益法人三重県環境保全事業団(三重県地球温暖化防止活動推進センター)、亀山市総合環境研究センター、三重県ユネスコ連絡協議会(亀山ユネスコ協会、松阪ユネスコ協会、名張ユネスコ協会含む)、企業と連携し、ESDプログラムを実施した。

この連携を基盤とし、12月には「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」設立のキックオフイベント「ESD in 三重 2014」国際会議を実施した。

平成27年度は、さらに各社会教育施設との連携強化を図り、教育委員会、自治体、企業等の協働体への参加を働きかけると共に、ESDプログラムの構築や改善を図り、ユネスコスクール加盟登録を進めていく。



左：海の博物館
(平成26年11月7日)



中央：斎宮歴史博物館
(平成26年11月8日)



右：三重県総合博物館
(平成26年11月9日)

(4) コンソーシアムの活動で得られた成果を地域の内外で共有するための「成果発表会」(年1回程度)等

(A)平成27年2月三重大学を拠点に「三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム」を開催して、平成26年度の成果発表を行う。

成果発表には、次の項目を含める。

- ・国内外のユネスコスクールとの交流の事例発表
- ・ユネスコスクール以外の学校でのESD活動の実施事例発表
- ・社会教育施設、青少年教育施設等との連携した事例発表
- ・先進的な取組をする国内外のユネスコスクールの活動実績をリサーチして発表

平成26年度は、12月に「三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム『「ESD in 三重 2014」国際会議』として、11月に開催した「ESD in 三重 2014」のポストイベントとの位置づけで実施した。

本シンポジウムでは、前文部科学省国際統括官の加藤重治氏による、ESDユネスコ世界会議の成果報告とESD活動の今後についての講演をしていただき、国内外のユネスコスクールに関する先進的な事例も含め、ESDのこれまでの成果と今後の展望についてお話いただき、県内ユネスコスクールとの情報共有を図った。

また、三重県内のユネスコスクール加盟申請中を含む小・中・高・大学の活動事例を、児童・生徒・学生らが報告し、ユネスコスクール以外の学校や教育委員会、社会教育施設(斎宮歴史博物館)の関係者らとも情報共有・交流を図った。

(B)和文と英文の成果報告書を発行する(平成27年2月)。

「三重大学国際環境教育研究センター」のホームページにて、「ESD in 三重 2014」と『「ESD in 三重 2014」国際会議』の和文・英文による開催報告の公開(11月・12月)と共に、『「ESD in 三重 2014」国際会議』資料集発行(12月)をもって、成果報告書とする。

(C)三重大学のホームページの中に、本取組の成果を公表するサイトを開設し(平成26年7月)、活動成果は随時公開する。

平成26年7月に「三重大学国際環境教育研究センター」のホームページのトップに「ESD in 三重」のバナーを設置し、本取組みの成果を公表するサイトを開設した。同サイトにおいて、コンソーシアム事業の概要や、「ESD in 三重 2014」と『「ESD in 三重 2014」国際会議』の概要および開催報告(日本語／英語)を随時公開している。



(5) 都道府県教育委員会との連携

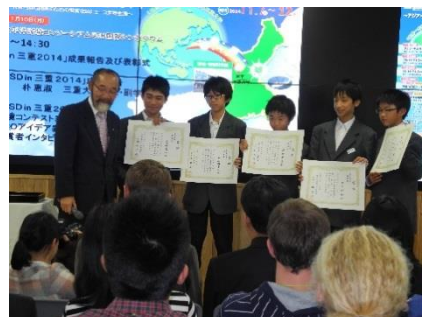
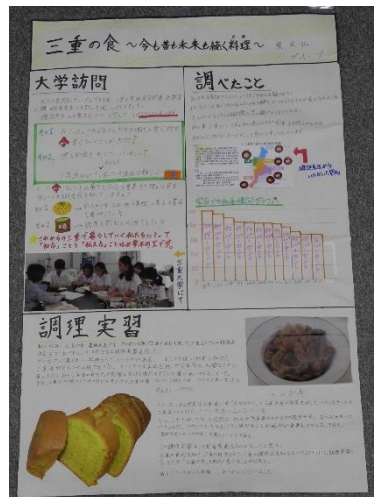
※都道府県教育委員会がコンソーシアムの構成団体でない場合でも行う。

(A) 三重県教育委員会は、産官学民の協働体「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」のメンバーとして構成されており、本取組に関しても連携した事業を展開する。なお、本事業の最終年度（平成28年度）には、三重県内自治体の14の全市の小中高校からのユネスコスクール登録を目指しているため、平成26年度は三重県教育委員会を通じて、ユネスコスクールの登録校がない県内各市の教育委員会と連携を図るための協議体制を構築する。

・環境コンテスト：三重県教育委員会（と三重県ユネスコ連絡協議会）の後援のもと、県内の小中高校生を対象とする「環境」がテーマの作品（ポスター・標語・壁新聞）コンテストを本学が主催した。作品募集期間は6月～9月。三重県教育委員会の協力により、県内の小中高校に応募の呼びかけができ、ポスター150点、標語222点、壁新聞23点の計395作品（のべ395人）が集まった。またこの表彰式を、「ESD in 三重 2014」の期間中に開催した「アジア・太平洋環境コンソーシアムESD国際シンポジウム」内で行い、ユネスコスクールに登録していない学校の関係者にも刺激となる場となった。



環境コンテストへの応募作品



環境コンテスト表彰式（平成26年11月10日）

・「ESD in 三重 2014」：三重県教育委員会の後援により、広報・周知に役立ち、多数の参加の応募があった。結果として、県内小・中・高校のユネスコスクール（加盟申請中含む）を中心とする10校から57名の児童・生徒がESDプログラムに参加した。また「ESD in 三重 2014」に参加したユネスコスクール登録校でない学校が、参加後にユネスコスクール加盟申請の手続きを始めたなど、その成果はユネスコスクールに留まることなく広がった。

・第14回地域が応援するキャリアアップセミナー：平成26年10月に、県内の中高生を対象とする「里山の生き物(植生・昆虫)と持続発展教育(ESD)」をテーマにした環境学習企画を、三重県教育委員会・(株)赤塚植物園・名古屋産業大学・三重大学が共催して実施した。

2. 事業の成果

次の4点が期待される成果である。

(1) 既存の三重県内の4市の16校のユネスコスクールを拠点としながら、三重県内の14の全市へのユネスコスクールの拡大及び連携・交流による質的向上が期待できる。

平成25年度時点では4市（津市・鈴鹿市・名張市・熊野市）であったが、今後新たに以下の4市（津市・四日市市・亀山市・松阪市）6校が加盟申請する予定である。

1. 学校法人セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校（津市）
2. 学校法人梅村学園三重中学校・高等学校（松阪市）
3. 亀山市立白川小学校（亀山市）
4. 亀山市立野登小学校（亀山市）
5. 学校法人エスコラピオス学園 海星中学校・高等学校（四日市市）
6. 学校法人暁学園 四日市看護医療大学（四日市市）

(2) 環境・文化・地域の国際化を図る充実した活動内容を活かす、産官学民との協働体「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」を形成し、地域で活躍する人材育成が期待できる。

12月6日にコンソーシアム立ち上げの記念シンポジウムとして『「ESD in 三重 2014」国際会議』を実施した。

「ESD in 三重 2014」と『「ESD in 三重 2014」国際会議』の実施に関わっていただいた、コンソーシアム構築メンバーとともに、県内でのコンソーシアム構成組織を増やしていくことを今後検討していく。



三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム「ESD in 三重 2014」国際会議（平成26年12月6日）

(3) 海外、特にアジア・太平洋諸国との連携を図るべく産官学民との協働体「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」を発展させ、国際連携事業を展開することで、地域に根ざし、世界に通用するグローバル人材育成が期待できる。

11月に「ESD in 三重 2014」を開催し、19カ国210人ものアジア・太平洋地域のユースの参加を促すことが出来た。参加者は、三重県内における自然・歴史・文化に触れるESDプログラムを体験し、その後ユースが一丸となって、持続可能な社会に向けた自らの役割を示した「アジア・太平洋持続可能な開発のための教育(ESD)ユース宣言」を作成した。そのため、国籍の異なる彼らがネットワークを形成し、国際的な視点を持ってその役割を担ってくれることが期待できる。



左：アジア・太平洋環境コンソーシアムESD国際シンポジウム（平成26年11月10日）
中央：三重大学セミナー「ESD in 三重2014」（平成26年11月12日）
右：三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム「ESD in 三重2014」国際会議（平成26年12月6日）

（４）持続発展教育（ESD）に関するユネスコ世界会議のパートナーシップ事業として、三重大学と産官学民との連携による、アジア諸国のユネスコスクール関連の子どもや青少年による「ESD in 三重2014」が平成26年11月に実施される予定である。三重県内のユネスコスクール加盟校とそれ以外の学校とのユネスコスクール活動の連携・交流が活性化され、ESDの量質共の飛躍が見込まれる。

「ESD in 三重2014」の開催により、県内小・中・高校のユネスコスクール（加盟申請中含む）を中心とする10校から57名の児童・生徒がESDプログラムに参加した。「ESD in 三重2014」終了後、ユネスコスクールに加盟していなかった参加校が1校、新たにユネスコスクールへの加盟申請手続きを始めたことから、今後も継続してESDプログラムの構築・実施をすることで、更なるESDの取り組みの量・質共の飛躍が考えられる。

また12月には「三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム2014『「ESD in 三重2014」国際会議』を開催し、ユネスコスクール加盟に前向きな学校関係者にも参加していただいたことで、県内のユネスコスクール加盟校とそれ以外の学校とのユネスコスクール活動の連携・交流が促進でき、今後一層活性化をすることが期待できる。



三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム「ESD in 三重2014」国際会議（平成26年12月6日）

このような諸成果のシナジー効果により、最終年度には、三重県が国内外に誇れるユネスコスクールの先進地域として高く評価されることが多いに期待できる。

3. 本事業実施に対する事後評価の方針・予定・体制

(1) 三重大大学の管理体制（PDCAサイクル）の適用

三重大大学は、平成19年11月に全国初となる全学一括のISO14001認証を取得していることから、すでに環境マネジメントシステム(EMS)が確実に適用できている。その管理体制（PDCAサイクル）を適用する。年度毎に、計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、見直し改善（ACT）で運用を進める。特に、評価において、内部評価だけでなく、産官学民との協働体「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」による外部評価も年度毎に実施をする。内部評価及び外部評価は、HPなどを通じて公開する。

環境マネジメントシステム(EMS)による、計画(4月)・運用(6月～2月)・点検(2月)・評価(2月)を実施した上で、トップマネジメント(学長)によるレビューを踏まえて、次年度の計画に反映させる。また結果は次年度公開する予定である。さらに、コンソーシアム構成組織による内部評価および、事業に関わった外部者による外部評価も行う。

(2) 年度評価及び事業後の統括評価

年度評価の実施時期は、毎年度末(2～3月)に行い、最終年度(平成28年度)は平成29年1月頃として、補助事業全体の総括評価を実施する。

平成26年度の年度評価では、本事業のESDコーディネーターとして位置づけている市町教育委員会関係者、行政・NPO関係者、社会教育施設関係者を中心に、本事業の展開において重要なコンソーシアム構成組織である三重県教育委員会、県内ユネスコ協会、企業、行政関係者などに運営・評価委員会(平成27年2月26日開催)に出席していただき、「ESD in 三重 2014」の事後評価を中心に、平成26年度事業に関して内部・外部の視点から講評いただき、次年度の取組みに反映させる。

【出席者】

《内部評価》

- ・名張市教育委員会 教育長 上島様
- ・亀山市総合環境研究センター 事務局長 坪田様
- ・斎宮歴史博物館 館長 伊藤様
- ・三重県教育委員会 小中学校教育課課長 鈴木様
- ・三重県ユネスコ連絡協議会 理事長 谷岡様
- ・株式会社光機械製作所 代表取締役社長 西岡様
- ・三重県松阪地域防災総合事務所 主幹 佐野様

《外部評価》

- ・岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科 講師 朴貞淑先生
- ・愛知淑徳大学交流文化学部 助教 森下佳南先生

資料 4 . 平成 2 6 年度 ユネスコ活動費補助金

グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業企画書

※ 整理番号（事務局記入欄）	申請代表者 職名	三重大学学長
申請代表団体名 国立大学法人 三重大学	申請代表者 氏名	内田 淳正 印
申請部署名 国際環境教育研究センター	申請責任者 職名 (部署の長)	三重大学理事・副学長
	申請責任者 氏名	朴 恵淑 印
所在地 〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577		
事務連絡先 職名：国際環境教育研究センター支援室 係長 氏名：秦 克之 住所：三重県津市栗真町屋町1577 TEL：059-231-9823 FAX：059-231-9859 E-mail： jimukyoku@gecer.mie-u.ac.jp		

I 基本情報

1. 補助事業名称 三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム	
2. コンソーシアム構成団体（代表団体含む）	
構成団体名	連絡先 (住所、電話、FAX等)
国立大学 三重大学	三重県津市栗真町屋町1577 TEL:059-232-9823
三重県教育委員会	三重県津市広明町13番地 TEL：059-224-2946
三重県松阪地域防災総合事務所	三重県松阪市高町138 TEL:0598-50-0530
三重県ユネスコ連絡協議会	三重県津市広明町13番地 三重県教育委員会社会教育・文化財保護課社会教育班気付 TEL：059-224-3322

伊勢市教育委員会	三重県伊勢市小俣町元町540番地 TEL：0596-22-7875
亀山市教育委員会	三重県亀山市本丸町577番地 TEL：0595-84-5072
桑名市教育委員会	三重県桑名市中央町2-37 TEL：0594-24-1236
鈴鹿市教育委員会	三重県鈴鹿市神戸1丁目18-18 TEL：059-382-7617
津市教育委員会	三重県津市広明町13番地 TEL：059-229-3292
名張市教育委員会	三重県名張市鴻之台1番町1番地 TEL：0595-63-7882
松阪市教育委員会	三重県松阪市殿町1340番地1 Tel：0598-53-4312
四日市市教育委員会	三重県四日市市諏訪町1番5号 TEL：059-354-8236
伊賀市	三重県伊賀市上野丸之内116番地 TEL：0595-20-9105
伊勢市	三重県伊勢市岩渕1-7-29 TEL：0596-21-5540
いなべ市	三重県いなべ市北勢町阿下喜2633番地 TEL：0594-72-3946
尾鷲市	三重県尾鷲市中央町10番43号 TEL：0597-23-1700
亀山市	三重県亀山市本丸町577番地 0595-84-5068
熊野市	三重県熊野市井戸町796 TEL：0597-89-2804
志摩市	三重県志摩市阿児町鶴方3098-22 TEL：0599-44-0001
鳥羽市	三重県鳥羽市鳥羽三丁目1-1 TEL：0599-25-1112
四日市市	三重県四日市市諏訪町1番5号 TEL：059-354-8188
日本ユネスコ協会連盟	東京都渋谷区恵比寿1-3-1 TEL：03-5424-1121
亀山ユネスコ協会	三重県亀山市江ヶ室2丁目4-37 TEL：0595-82-0010
名張ユネスコ協会	三重県名張市鴻之台1番町1番地 TEL：0595-63-7892
松阪ユネスコ協会	三重県松阪市駅部田町1662 TEL0598-26-3711
三重県地球温暖化防止活動推進センター	三重県津市河芸町上野3258番地 TEL：059-245-7517

亀山市総合環境研究センター	三重県亀山市布気町442番地 TEL:0595-84-3611
伊勢湾再生推進会議	愛知県名古屋市中区三の丸二丁目5番1号 TEL: (052)953-8127
三重県総合博物館	三重県津市一身田上津部田1234 TEL: 059-228-2283
斎宮歴史博物館	三重県多気郡明和町竹川503 TEL: 0596-52-3800
四日市公害と環境未来館	三重県四日市市諏訪町1番5号 TEL: 059-354-8065
海の博物館	三重県鳥羽市浦村町大吉1731-68 TEL:0599-32-6006
株式会社東産業	三重県四日市市野田1丁目8番38号 TEL: 059-332-2323
株式会社光機械製作所	三重県津市一身田中野8-1 Tel:059-227-5511
シャープ株式会社亀山工場	三重県亀山市白木町幸川464番 TEL: 0595-84-7666
シャープ株式会社三重工場	三重県多気郡多気町五佐奈1177番地の1 TEL: 0598-38-1221
生活協同組合コープみえ	三重県松阪市大口町字北堀田273-2 TEL: 0598-51-4411
中部電力株式会社	三重県津市丸之内2-21 TEL: 059-226-5555
万協製薬株式会社	三重県多気郡多気町五桂1169-142 TEL: 0598-37-2088
三重県環境整備事業協同組合	三重県津市広明町112番地の5 TEL: 059-225-5479
ユニーグループ・ホールディング株式会社	愛知県稲沢市天池五反田町1番地 0587-24-8000 (代表)
三重テレビ放送(株)	三重県津市湊見町693-1 TEL:059-223-3360
伊勢新聞社	三重県津市本町34-6 TEL: 059-224-0003

３．補助事業による活動地域（市町村単位） 三重県の全市（１４市が対象） ユネスコスクール関連自治体：津市、鈴鹿市、名張市、熊野市 ユネスコスクール登録申請中／関連活動自治体；いなべ市、桑名市、四日市市、亀山市、伊賀市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、尾鷲市	
４．ＥＳＤコーディネーター	
氏 名	亀山 裕美子
所属・役職	元三重大学「美（うま）し国おこし・三重さきもり塾」 産学連携コーディネーター（平成21年度～25年度）
ＥＳＤの実践、国際交流、企業との連携等の経験	2002年のヨハネスブルグでのRio+10の会議をきっかけに、NPO団体（三重のまちづくり）において、ESD活動を行っていた。2009年から2013年まで、三重大学が企画・実施している「美（うま）し国おこし・三重さきもり塾」のコーディネーターとして、防災教育を推進してきた。特に、三重大学が2009年8月に全国初となる全学一括のユネスコスクール登録を行い、教職員を中心とする三重大学ユネスコスクール委員会及び学生を中心とする三重大学ユネスコスクール学生委員会との連携を図る一方、三重県内の４つの自治体の16のユネスコスクール活動、特に、防災教育部門において積極的に関わった。
本事業での活動内容	・産官学民の構成団体との連絡業務 ・三重県・三重県内自治体の教育委員会との連携業務 ・ユネスコスクールの支援業務 ・ユネスコスクール登録支援業務 ・ユネスコスクール・パートナーシップ委員会の支援業務 ・コンソーシアムの構築・運営・管理 ・グローバル人材育成プログラムの構築 ・専門家（学識経験者等）の選定と調整
氏 名	池村 進
所属・役職	三重大学 国際環境教育研究センター支援室 非常勤職員
ＥＳＤの実践、国際交流、企業との連携等の経験	元公立学校教員であり、元高田短期大学研究員として、科学遊びの観点から「ASEAN諸国 の子どもたちの遊びの実態に関する調査報告」等の研究実績を行ってきた。また、１０年以上途絶えていた、松阪ユネスコ協会（2013年3月～）の復活に尽力し、同協会会長でもある。
本事業での活動内容	・三重県・三重県内自治体の教育委員会との連携業務 ・ユネスコスクールの支援業務 ・ユネスコスクール登録支援業務 ・ユネスコスクール・パートナーシップ委員会の支援業務

氏 名	上 島 和 久
所 属 ・ 役 職	名 張 市 教 育 委 員 会 教 育 長
E S D の 実 践 、 国 際 交 流 、 企 業 と の 連 携 等 の 経 験	元名張市立小学校の校長、中学校の教頭を歴任しており、現在は名張市の教育長として教育の現場に携わっている。名張市は、県内のユネスコスクール登録校の半数を占めており、教育委員会としてもユネスコ活動を推進している。
本 事 業 で の 活 動 内 容	・ ユネスコスクールの支援業務 ・ ユネスコスクール登録支援業務 ・ ユネスコスクール・パートナーシップ委員会の支援業務
氏 名	坪 田 公 児
所 属 ・ 役 職	亀 山 市 総 合 環 境 研 究 セ ン タ ー 事 務 局 長
E S D の 実 践 、 国 際 交 流 、 企 業 と の 連 携 等 の 経 験	亀山市は三重大学と連携し、「亀山市民大学キラリ」を開設し環境・文化・健康を縦横に連携した学問を体系的実施しており、事務局長として、積極的に関わっている。また、この市民大学にはシャープ亀山工場等との連携も行っており、地元企業との連携も推進している。
本 事 業 で の 活 動 内 容	・ 産官学民の構成団体との連絡業務 ・ 三重県・三重県内自治体との連携業務 ・ コンソーシアムの構築・運営・管理
氏 名	伊 藤 久 美 子
所 属 ・ 役 職	斎 宮 歴 史 博 物 館 館 長
E S D の 実 践 、 国 際 交 流 、 企 業 と の 連 携 等 の 経 験	斎宮歴史博物館の館長として、県内外に対して歴史・文化を発信し、同博物館における児童・生徒・学生の受入や地元企業との連携を積極的に推進している。また、元三重県環境安全部次長として、地域環境・NPO・生涯学習等の行政に携わっていた。
本 事 業 で の 活 動 内 容	・ 産官学民の構成団体との連絡業務 ・ 三重県・三重県内自治体との連携業務 ・ コンソーシアムの構築・運営・管理

5. 事務局の体制

グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業 組織体制図



6. 補助事業期間

- ・ 補助事業の着手(予定)日 交付決定日
- ・ 補助事業の完了(予定)日 平成29年2月28日

※ 補助事業完了予定日は、最長で平成29年2月28日までとする。

Ⅱ 事業内容

1. 事業推進の背景、課題等

※事業推進にあたっての背景、ESD推進にあたっての課題等について記述ください。

三重県内では、ユネスコスクールが4市（津市、鈴鹿市、名張市、熊野市）の小学校9校、中学校5校、高等学校1校、大学1校（三重大学）の16校が登録（津市の中高一貫校1校が登録申請中）している。特に、名張市の小中学校では、名張ユネスコ協会と韓国水原市のユネスコ協会との連携により、両市の小中学校と絵の交換活動を30年以上継続しており、また、毎年水原市で開催される青少年環境フォーラムにも中学生が参加している。津市の三重大学教育学部附属中学校では、中国天津師範大学附属中学校との国際交流を毎年行っており、ブラジルなど外国人比率が高い鈴鹿市の小中学校では、市内の外国人との協働による祭りなどの文化活動、熊野市の高校では、ユネスコ世界遺産の熊野古道の文化遺産を世界にアピールするため、英語によるガイドを努めるなど、多様なユネスコ活動を行っている。

一方、南海トラフによる巨大地震が最も懸念される三重県において、防災教育は大変重要なESDの推進課題となっている。幸い、三重大学は、三重県内の防災拠点として、平成21年度から三重さきもり塾を開設し、地域の防災リーダーの育成や命を守るための防災訓練などを積極的に行っている。また、再生可能エネルギーなどを視野に入れた創エネ・蓄エネ・省エネなどのエネルギー教育も急務となっている。

伊勢湾に面している三重県は、生物多様性の宝庫である松名瀬干潟、里海、海女文化が盛んな地域でもあり、韓国済州島の海女との連携による海女文化のユネスコ世界遺産の登録にも積極的に取り組んでいる。海の自然環境（生物多様性保全）を守りながら海女文化の国際交流を図るなど、多様な活動を海女や海の博物館、三重県立総合博物館、斎宮歴史博物館、地元のメディア、企業、海外との連携によって行っている。地域に根ざし、国際的な視野を備え持つグローバル人材の育成のためのESDの推進が必要不可欠となっている。

2. 事業の目的

本事業の目的は次の3点に力点を置く。

- （1）既存の三重県内の4市の16校のユネスコスクールを拠点としながら、三重県内の14の全市へのユネスコスクールの拡大を図る。
- （2）環境・文化・地域の国際化を図る充実した活動内容を活かす、産官学民との協働体「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」を形成し、地域で活躍する人材を育成する。
- （3）地域に根ざし、国際的な視点を持ったグローバル人材育成のために、海外、特にアジア・太平洋諸国との連携を図るべく、「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」を発展させた国際連携事業を展開する。

3. 事業の内容

(1) 事業の全体構想（3か年計画）

※事業の各活動についての実施時期も含め、できるだけ具体的に明記ください。

①国内外のユネスコスクールとの交流

- (A)三重県内16校のユネスコスクールの交流機会を創出するために、「三重ユネスコスクール研修会・シンポジウム」を毎年1回開催し、各学校で行っているユネスコスクール活動の情報共有を図る。また、ユネスコスクール全国大会へ積極的に参加し、他地域のユネスコスクール活動の長所から学び、ノウハウを共有し、各々のユネスコスクール活動を発展させる。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）
- (B)ユネスコスクールネットワーク(ASPNet)及びユネスコスクール大学間ネットワーク(ASPUnivNet)との緊密な連携によって、三重県のみならず、全国的なユネスコスクール活動の拡大や質的向上を図る。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）
- (C)自然環境と生物、人間との関わりを学びの場とするモデル地域を設定し（松阪市の松名瀬干潟）、三重県・松阪市・松阪ユネスコ協会との連携及び、トヨタ自動車㈱及び伊勢新聞社の支援を得て、生物多様性に関連したESDプログラムを実施する。（平成26年8月と11月）本事業の最終年度に、ラムサール条約の登録を目指す。（平成28年度）
- (D)三重県鳥羽市の離島へのエネルギー供給のため、答志島から神島へ海底ケーブルによる電力供給の仕組み、風力発電、太陽光発電など実践的エネルギー教育について、中部電力との協働でESDプログラムを実施する。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）
- (E)海女文化を学びの場とするモデル地域を設定し（鳥羽市及び志摩市）、海の博物館及び三重県総合博物館、斎宮歴史博物館との連携による海女文化のESDプログラムを構築し、実施する。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）
- (F)文化と産業を学びの場とするモデル地域を設定し（亀山市関宿）、亀山ユネスコ協会と連携し、総合的な教育プログラムを実施する。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）
- (G)平成26年11月実施の「ESDに関するユネスコ世界会議」のパートナーシップ事業として三重大学が中心となって開催する『ESD in 三重 2014』において、国際理解（交流）のESDを実施する。特に、三重大学の練習船「勢水丸」（総トン数318トン、国際トン数419トン）を用いた海洋生物多様性学習を200名の国内外のユネスコスクールの学生へ実施し、三重大学ユネスコスクール学生委員会の学生をファシリテーターとして関わらせ、国内外の小中高校生とのコミュニケーションを図る。（平成26年11月）
- (H)ユネスコ世界遺産の「熊野古道」の歴史、文化を知るESDプログラムを構築し、実施する。特に、熊野市のユネスコスクールの木本高校が実施している英語によるガイド活動の充実を図り、グローバル人材育成のグッド・プラクティスとして発展させる。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）
- (I)津市のユネスコスクールの三重大学教育学部附属中学校が毎年実施している、中国天津師範大学附属中学校との国際理解（教育）プログラムを発展させ、グローバル人材育成の有効なツールとして活性化する。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）
- (J)名張市の9校のユネスコスクールと名張ユネスコ協会の協力を得て、韓国水原市ユネスコ協会との連携によって毎年実施している、絵の国際交流展示会をESDプログ

ラムとして発展させ、実施する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(K) 韓国水原市が毎年実施している「日韓青少年環境フォーラム」に、三重県内のユネスコスクールが積極的に参加し、国際理解(交流)の仕組みを構築し、運営する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(L) 三重県内唯一のユネスコスクール大学の三重大学が中心となって、中国江蘇大学・タイチェンマイ大学・インドネシアボゴル農科大学との連携で毎年開催する「3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム」に、三重大学ユネスコスクール学生委員会の学生を多数参加させ、地域に根ざし、世界に通用するグローバル人材を育成する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(M) 三重大学の留学生をユネスコスクール学生委員会へ加入させ、三重県の環境や文化遺産などについて多言語の資料を作成し、世界へ情報発信する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

② ユネスコスクール以外の学校でのESD活動の実施

(A) 松阪市の松名瀬干潟は、渡り鳥の渡来地や動植物の豊富な干潟である。申請時(平成26年4月)に、松阪市のユネスコスクールはゼロであるが、松阪市松名瀬干潟をモデル地域とする、陸と海での生物多様性保全活動を行い、三重県・松阪市・松阪ユネスコ協会との連携によって松阪市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(B) 亀山市関宿は、日本の歴史や文化を知る貴重な文化遺産を有する地域であるが、申請時(平成26年4月)に、亀山市内の小中高校でのユネスコスクールはゼロである。亀山市教育委員会及び亀山ユネスコ協会と連携しながら、亀山市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(C) 海女文化及び里海など、文化遺産と海の生物多様性保全のESDプログラムが期待されている鳥羽市と志摩市の小中高校において、申請時(平成26年4月)に、ユネスコスクールはゼロであるが、海の博物館及び三重県総合博物館、斎宮歴史博物館と連携しながら、鳥羽市と志摩市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(D) 三重大学で毎年開催される「三重大学ユネスコスクール研修会・シンポジウム」に、ユネスコスクール登録を目指す小中高校の教員や学生を招聘し、ユネスコスクール活動について理解させ、それぞれの学校の特色を活かしたユネスコスクール活動がスタートできるようコーディネーターが中心となって支援する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(E) 平成26年11月実施の「ESDに関するユネスコ世界会議」のパートナーシップ事業として三重大学が中心として開催する『ESD in 三重 2014』において、ユネスコスクール登録を目指す三重県内の小中高校の教員や学生を参加させ、国際理解(交流)のESDを実施する。コーディネーター及び三重大学ユネスコスクール学生委員会の学生をファシリテーターとして関わらせ、国内外の小中高校生との交流を図る。(平成26年11月)

③ 社会教育施設、青少年教育施設等との連携

(A) 三重県内の企業((株)光機械製作所・万協製薬(株)・(株)中部電力・シャープ(株)亀山工場・シャープ(株)三重工場・(株)東産業)がCSR活動として地域のNPOや団体との協働で実施しているエネルギー環境教育を中心とするESDプログラムを実施する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(B)海の博物館を中心とする海女文化、三重県総合博物館を中心とする陸や海の環境と生物（人間）との営み、斎宮歴史博物館を中心とする歴史文化、公益法人三重県環境保全事業団（三重県地球温暖化防止活動推進センター）を中心とする地球温暖化防止、NPO 法人亀山市総合環境研究センター、亀山ユネスコ協会、松阪ユネスコ協会、名張ユネスコ協会を中心とする文化財保全、企業等との連携による協働体「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」を構築する。コンソーシアムを通じて、環境、エネルギー、防災、生物多様性保全、地球温暖化防止、国際理解（交流）、文化財保全などのESD教育プログラムを実施すると同時に、ユネスコスクール及びユネスコスクールへ登録準備を行っている三重県内全市の小中高校を支援する。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）

④コンソーシアムの活動で得られた成果を地域の内外で共有するための「成果発表会」（年1回程度）等

(A)毎年2月頃、三重大学を拠点に「三重ユネスコスクール研修会／シンポジウム」を開催する。三重大学は、2009年8月に三重県唯一の大学としてユネスコスクールに登録し、毎年1月～2月に成果発表会を開催している。特に、2010年10月の国連生物多様性第10回締約国会議(COP10)のパートナーシップ事業として『COP 10 in 三重』を企画、開催し、アジア・太平洋地域から200名の小中高大学生を招聘し、ユネスコスクール活動を行った。毎年の成果発表会には、文部科学省・公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)・社団法人日本ユネスコ協会連盟、三重大学と国際交流協定を結んでいる諸大学の関係者を基調講演や記念講演、アドバイザーとして招聘し、他県や日本全国、海外との交流を図ってきたそのノウハウを活かし、本事業を進める。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）

成果発表には、次の項目を含める。

- ・国内外のユネスコスクールとの交流の事例発表
- ・ユネスコスクール以外の学校でのESD活動の実施事例発表
- ・社会教育施設、青少年教育施設等との連携した事例発表
- ・先進的な取組をする国内外のユネスコスクールの活動実績をリサーチして発表
- ・最終年度（平成28年度）は、3年間の成果と次年度以降の実施計画について発表

(B)毎年2月に、和文と英文（概要版）の成果報告書を発行する。

(C)成果については、随時HPへアップする。（英文・和文）

⑤都道府県教育委員会との連携

※ 都道府県教育委員会がコンソーシアムの構成団体でない場合でも行う。

(A)三重県教育委員会は、産官学民との協働体（**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**）のメンバーである。なお、本事業の最終年度（平成28年度）には、三重県内自治体の14の全市の小中高校からのユネスコスクール登録を目指していることから、各自治体の教育委員会との連携も図る。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）

(B)現在（平成26年4月）、津市のセントヨゼフ女子学園（中高一貫校）が、ユネスコスクール登録に向けて準備をしており、今後、高校のユネスコスクール登録が増えることが予想されることから三重県教育委員会との密接な連携はますます重要視される。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）

（２）平成２６年度事業の内容

※（１）事業の全体構想（３か年計画）の中での位置付け、事業の各活動についての実施時期も含め、できるだけ具体的に明記ください。

ユネスコスクール・持続可能な開発のための教育（ESD）の基本的な考え方の内容（〔環境学習〕／〔国際理解学習〕／〔生物多様性〕／〔エネルギー学習〕／〔気候変動〕／〔防災学習〕／〔世界遺産や地域の文化財等に関する学習〕／〔その他関連する学習〕）に照らし合わせて記述をする。

①国内外のユネスコスクールとの交流

平成26年は、11月に「ESDに関するユネスコ世界会議」のパートナーシップ事業として『ESD in 三重 2014』を開催する。

(A)『ESD in 三重 2014』と連携し、三重県内16校のユネスコスクールの交流機会を創出するために、「三重大学ユネスコスクール研修会・シンポジウム」を11月に開催し、各学校で行っているユネスコスクール活動の情報共有を図る。海外の先進事例や地域特性の事例など交流材料とするために、韓国、モンゴル国、ロシア連邦などからプロフェッサーや要人等をアドバイザーとして招聘する。

(B)「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催に合わせ、ユネスコスクールネットワーク(ASPNet)及びユネスコスクール大学間ネットワーク(ASPUivNet)と連携体制を整え連携を図る。

(C)〔生物多様性〕：準備7月と10月、実施8月と11月

自然環境と生物、人間との関わりを学びの場とするため松阪市の松名瀬干潟をモデル地域に設定し、三重大学、県内ユネスコスクール校、三重県・松阪市、松阪ユネスコ協会と、トヨタ自動車及び伊勢新聞を含めた、産官学民連携による、生物多様性に関連したESDプログラムを8月と11月に実施する。

(D)〔エネルギー学習〕／〔気候変動〕：準備9月～12月、実施1月

ユネスコスクールなどを対象としたESDプログラムとして、海底ケーブルによる電力供給の仕組み、風力発電、太陽光発電など実践的エネルギー教育を、三重県鳥羽市の離島の答志島から神島をフィールドとして開催し、中部電力など企業と交流を図る。

(E)〔世界遺産や地域の文化財等に関する学習〕／〔国際理解学習〕：体制整備8月～三重オリジナルの海女文化をテーマに学びの場とするため鳥羽市及び志摩市をモデル地域と設定し、海の博物館及び三重県総合博物館、斎宮歴史博物館との連携による海女文化のESDプログラムの実施体制を整えて、ESDプログラムを構築する。

(F)〔環境学習〕／〔国際理解学習〕／〔防災学習〕：プログラム構築6月～

文化と産業をテーマに学びの場とするため亀山市関宿をモデル地域と設定し、亀山ユネスコ協会と連携し、総合的な教育プログラムを構築する実施体制を整えて、ESDプログラムを構築する。

(G)〔国際理解学習〕／〔環境学習〕：準備7月～10月、実施11月

『ESD in 三重 2014』において、三重大学の練習船「勢水丸」を用いた海洋生物多様性学習を200名の国内外のユネスコスクールの学生へ実施する。海洋生物多様性学習の実施には、三重大学ユネスコスクール学生委員会の学生をファシリテーターとして関わらせ、国内外の小中高校生とのコミュニケーションを図り国際理解(交流)のESDを実施する。

(H)〔世界遺産や地域の文化財等に関する学習〕：実施9月～

ユネスコ世界遺産の「熊野古道」の歴史、文化を知るESDプログラムを構築、実施する。熊野市のユネスコスクールの木本高校が実施している英語によるガイド活動を三重大学と連携し充実を図る。

(I)〔国際理解学習〕：プログラム見直し10月～

津市のユネスコスクールの三重大学教育学部附属中学校が実施している、中国天津師範大学附属中学校との国際理解（教育）プログラムを発展させるために見直しを行う。

(J)〔国際理解学習〕：準備検討7月～

名張市の9のユネスコスクールが名張ユネスコ協会の協力を得て、韓国水原市のユネスコスクールと実施している、絵の国際交流展示会を発展させて、ESDプログラムとして構築する検討を始める。

(K)〔国際理解学習〕：検討開始8月～

韓国水原市が毎年実施している「日韓青少年環境フォーラム」に、三重県内のユネスコスクールが参加し、国際理解（交流）のできるような仕組みの検討を始める。

(L)〔国際理解学習〕：検討開始6月～、実施11月～3月

三重大学・中国江蘇大学・タイチェンマイ大学・インドネシアボゴル農科大学との連携し国際交流を兼ねた論文発表会を目的に開催する「3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム」において、三重大学ユネスコスクール学生委員会の学生を参加させる機会を検討し実施する。

(M)〔その他関連する学習〕：呼掛け開始6月～準備7月から10月、実施11月

三重大学の留学生をユネスコスクール学生委員会へ加入の呼び掛けを行い、三重県の環境や文化遺産などについて多言語で発信するツールの作成を検討する。

②ユネスコスクール以外の学校でのESD活動の実施

ユネスコスクール以外の学校に対しても、「①国内外のユネスコスクールとの交流」で実施（記載した）するESD活動を基本に展開する。平成26年度は『ESD in 三重 2014』を実施することから、ユネスコスクール登録がまだない松阪市と鳥羽市・志摩市を重点活動地域として実施をする。

(A)〔国際理解学習〕／〔環境学習〕：準備7月～10月、実施11月

平成26年度は『ESD in 三重 2014』の開催に伴い実施する、松阪市松名瀬干潟をモデル地域とする、陸と海での生物多様性保全活動と生物多様性に関連したESDプログラムを行い、三重県・松阪市・松阪ユネスコ協会との連携に松阪市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。

(B)〔環境学習〕／〔国際理解学習〕／〔防災学習〕：プログラム構築6月～

亀山市内の小中高校でのユネスコスクールはゼロであるが、亀山市教育委員会及び亀山ユネスコ協会と連携しながら、亀山市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。

(C)〔世界遺産や地域の文化財等に関する学習〕／〔国際理解学習〕：体制整備8月～

平成26年度は『ESD in 三重 2014』の開催に伴い実施する、海女文化及び里海など、文化遺産と海の生物多様性保全のESDプログラムを鳥羽市と志摩市で行い、海の博物館及び三重県総合博物館、斎宮歴史博物館と連携しながら、鳥羽市と志摩市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。

③社会教育施設、青少年教育施設等との連携

社会教育施設等の連携は「①国内外のユネスコスクールとの交流」で実施（記載した）するESD活動『ESD in 三重 2014』を実施するために平成26年度は連携事業を実施する。特に平成26年度はユネスコスクール・ESDプログラムとして新たな連携先として社会教育施設に加え、産業界（企業）と連携したESDプログラムの実施に向けた検討をはじめめる。

(A)産業界との新たな連携：

三重県内の企業（（株）光機械製作所・万協製菓（株）・（株）東産業・（株）中部電力・シャープ（株）亀山工場・シャープ（株）三重工場）がCSR活動として実施できるエネルギー環境教育を中心とするESDプログラムの検討をはじめめる。

(B)社会教育施設等との連携強化：

海の博物館、三重県総合博物館、斎宮歴史博物館、公益法人三重県環境保全事業団（三重県地球温暖化防止活動推進センター）、NPO 法人亀山市総合環境研究センター、亀山ユネスコ協会、松阪ユネスコ協会、名張ユネスコ協会と企業等との連携による協働体（三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム）を創設する。

④コンソーシアムの活動で得られた成果を地域の内外で共有するための「成果発表会」（年1回程度）等

(A)平成27年2月三重大学を拠点に「三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム」を開催して、平成26年度の成果発表を行う。

成果発表には、次の項目を含める。

- ・国内外のユネスコスクールとの交流の事例発表
- ・ユネスコスクール以外の学校でのESD活動の実施事例発表
- ・社会教育施設、青少年教育施設等との連携した事例発表
- ・先進的な取組をする国内外のユネスコスクールの活動実績をリサーチして発表

(B)和文と英文の成果報告書を発行する（平成27年2月頃）。

(C)三重大学のホームページの中に、本取組の成果を公表するサイトを開設し（平成26年7月頃）、活動成果は随時公開する。

⑤都道府県教育委員会との連携

※都道府県教育委員会がコンソーシアムの構成団体でない場合でも行う。

(A)三重県教育委員会は、産官学民の協働体「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」のメンバーとして構成されており、本取組に関しても連携した事業を展開する。なお、本事業の最終年度（平成28年度）には、三重県内自治体の14の全市の小中高校からのユネスコスクール登録を目指しているため、平成26年度は三重県教育委員会を通じて、ユネスコスクールの登録校がない県内各市の教育委員会と連携を図るための協議体制を構築する。

4. 事業実施体制と各構成団体の役割・活動内容（3か年）	
構成団体名	役割・活動内容
国立大学三重大学	・本事業の統括 ・ESDコーディネーター設置 ・産官学民との協働体「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」の創設・運営・管理 ・『ESD in 三重 2014』の実施（平成26年11月） ・三重県内の全市でのユネスコスクールの拡大・連携交流 ・ユネスコスクールモデル事業（松名瀬干潟／亀山市関宿／鳥羽市・志摩市の海女文化）の展開 ・グローバル人材育成のESDプログラムの開発・運営 ・アジア諸国との国際連携事業の展開 ・成果報告会の開催（年1回） ・報告書作成（和文・英文） ・HPの構築・運営（和文・英文）
* 県・市教育委員会等 三重県教育委員会 桑名市教育委員会 鈴鹿市教育委員会 松阪市教育委員会 名張市教育委員会 津市教育委員会 いなべ市 四日市市 亀山市 伊賀市 伊勢市 鳥羽市 志摩市 尾鷲市 熊野市	・三重県内の全市でのユネスコスクールの拡大・質的向上の全面的支援 ・ユネスコスクールモデル事業（松名瀬干潟／亀山市関宿／鳥羽市・志摩市の海女文化）の全面的支援 ・グローバル人材育成のESDプログラムへの全面的支援
* ユネスコ協会等 日本ユネスコ協会連盟 亀山ユネスコ協会 名張ユネスコ協会 松阪ユネスコ協会	・ユネスコスクールモデル事業（松名瀬干潟／亀山市関宿／鳥羽市・志摩市の海女文化）の全面的協力 ・グローバル人材育成のESDプログラムへの全面的協力
* その他A 三重県総合博物館 海の博物館 斎宮歴史博物館	・ユネスコスクールモデル事業（松名瀬干潟／亀山市関宿／鳥羽市・志摩市の海女文化）の全面的協力 ・学びの場の提供／学芸員の派遣／情報提供

* その他B 三重県環境保全事業団（三重県地球温暖化防止活動推進センター） 三重県松阪地域防災総合事務所 三重県環境整備事業共同組合 伊勢湾再生推進会議 生活協同組合コープみえ 亀山市総合環境研究センター	・地球温暖化防止教育プログラムの全面的協力 ・地球温暖化防止推進の派遣 ・省エネ活動の全面的協力 ・ユネスコスクールモデル事業（松名瀬干潟／鳥羽市・志摩市の海女文化）の全面的支援 ・海の生物多様性ESDプログラムの開発・実施の全面的支援 ・ユネスコスクールモデル事業（亀山市関宿）の全面的協力 ・里山の生物多様性ESDプログラムの開発・実施の全面的支援
* 民間企業A シャープ（株） 亀山工場 シャープ（株） 三重工場 中部電力（株） 万協製薬（株） （株）光機械製作所 （株）東産業	・エネルギーESDプログラムの開発・実施の全面的協力 ・水環境（海）ESDプログラムの開発・実施の全面的協力 ・講師派遣
* 民間企業B 三重テレビ放送（株） 伊勢新聞	・ユネスコスクール活動の報道
* 海外 アジア・太平洋環境 コンソーシアム 3 大学国際ジョイント セミナー＆シンポ ジウム アジア・太平洋地域の ユネスコスクール 韓国水原市 中国天津師範大学 附属中学校	・『ESD in 三重 2014』へ参加（平成26年11月） ・ユネスコスクールの国際連携・交流の活性化 ・英語によるESDプログラム開発へ全面的協力 ・成果発表会へ参加 ・多言語によるHPの構築・運営

5. 事業終了後の方策

※補助事業終了後もコンソーシアムの機能を継続するための計画(財政的措置も含む)についても併せて記入ください。

(1) 業務の継続性

- ① 代表団体の三重大学は、産官学民との連携による「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」の管理責任を持って継続する。コーディネーターの継続雇用を行う。
- ② ユネスコスクール加盟校を含め、それ以外の学校においてESDの推進を可能とするため、補助事業の3年間で、学習プログラムなどソフト面のコンテンツを完成させる。また、大学、国内外の自治体、企業との連携による、地域に根ざし、世界に通用するグローバル人材を育成する。
- ③ 海外のユネスコスクールとの国際連携・交流を積極的に展開し、本事業を国内に留まらず国際的に発展できるように、本コンソーシアムに海外のメンバーを運営委員として加え、積極的に展開する。
- ④ コミュニケーション・ツールとして、HPを和文と英文で充実させ、リアルタイムに情報伝達を図ることで、本事業の継続的発展を図る。

(2) 事業終了後の財政的措置

- ① 代表団体として、継続的にユネスコスクール活動が継続できるように、既存の三重大学ユネスコスクール委員会の予算枠に特別財政措置を講じる。
- ② 企業(株)光機械製作所、万協製薬(株)、(株)東産業、(株)中部電力、シャープ(株)亀山工場・シャープ(株)三重工場等と協議し、企業のCSR事業の一環として、特に、エネルギー教育、生物多様性教育、防災教育関連のESDプログラムが継続できるように財政的措置を講じる。
- ③ 三重県及び自治体と協議し、本事業終了後においても、ユネスコスクール活動が継続できるように、重点プロジェクトとして位置づけ、財政的措置を講じる。
- ④ 公益法人三重県環境保全事業団(三重県地球温暖化防止活動推進センター)及びNPO法人亀山市総合環境研究センターの重点プロジェクトと位置づけ、特に、地球温暖化防止、文化などのESDプログラムが継続できるように財政的措置を講じる。
- ⑤ 海の博物館、三重県総合博物館、斎宮歴史博物館等との連携によって、重要イベントとして年間行事に組み込み、継続させる。
- ⑥ アジア諸国のユネスコ委員会と協議し、国際ファンドを獲得することで本事業終了後においても継続的に実施できるような財政的措置を講じる。

6. 事業の実施により期待される成果

次の4点が期待される成果である。(参考資料；グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業概念図参照)

- (1) 既存の三重県内の4市の16校のユネスコスクールを拠点としながら、三重県内の14の全市へのユネスコスクールの拡大及び連携・交流による質的向上が期待できる。

- (2) 環境・文化・地域の国際化を図る充実した活動内容を活かす、産官学民との協働体「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」を形成し、地域で活躍する人材育成が期待できる。
- (3) 海外、特にアジア・太平洋諸国との連携を図るべく産官学民との協働体「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」を発展させ、国際連携事業を展開することで、地域に根ざし、世界に通用するグローバル人材育成が期待できる。
- (4) 持続発展教育(ESD)に関するユネスコ世界会議のパートナーシップ事業として、三重大学と産官学民との連携による、アジア諸国のユネスコスクール関連の子どもや青少年による『ESD in 三重 2014』が平成26年11月に実施される予定である。三重県内のユネスコスクール加盟校とそれ以外の学校とのユネスコスクール活動の連携・交流が活性化され、ESDの量質共の飛躍が見込まれる。

このような諸成果のシナジー効果により、最終年度には、三重県が国内外に誇れるユネスコスクールの先進地域として高く評価されることが多いに期待できる。

7. 本事業実施に対する事後評価の方針・予定・体制

(1) 三重大学の管理体制（PDCAサイクル）の適用

三重大学は、平成19年11月に全国初となる全学一括のISO14001認証を取得していることから、すでに環境マネジメントシステム(EMS)が確実に適用できている。その管理体制（PDCAサイクル）を適用する。年度毎に、計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、見直し改善（ACT）で運用を進める。特に、評価において、内部評価だけでなく、産官学民との協働体「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」による外部評価も年度毎に実施をする。内部評価及び外部評価は、HPなどを通じて公開する。

(2) 年度評価及び事業後の統括評価

年度評価の実施時期は、毎年度末（2～3月）に行い、最終年度（平成28年度）は平成29年1月頃として、補助事業全体の総括評価を実施する。

8. その他

○市町村等による同種及び類似事業の実施実績

※実施実績があれば、できるだけ具体的な実績を記入ください。

(1) 『COP10 in 三重』の実施実績（平成22年10月）

三重県や市町が単独で行った同種及び類似事業の実施実績はない。しかし、本事業と同様に、三重大学が主体となって、三重県及び自治体（亀山市、鳥羽市）との連携で、同種の事業を行った実績はある。

平成22年10月に、愛知・名古屋で「国連生物多様性条約第19回締約国会議(COP10)」が開催されたが、三重大学が主体となってパートナーシップ事業として『COP10 in 三重』を企画し、三重県及び自治体（亀山市、鳥羽市）及び企業（シャープ（株）亀山工場・中部電力（株））との連携によって実施した。

（２）『COP10 in 三重』の実施内容

アジア・太平洋環境コンソーシアムを9カ国（ロシア・モンゴル・中国・韓国・タイ・インドネシア・オーストラリア・アメリカ・日本）の33大学と結成し、内外の200名の小中高大学生（三重大学を含む三重県内のユネスコスクールの子ども、生徒、大学生及び以外の学校の学生）を対象に、平成22年10月11日から29日までに、「アジア・太平洋子ども&ユース生物多様性伊勢湾環境会議」を実施した。

- ①10月14日から15日には、三重大学の練習船「勢水丸（318トン）」による伊勢湾洋上国際環境学習を実施した。（三重県・鳥羽市の協力）

また、亀山里山公園（みちくさ）、関宿、シャープ（株）亀山工場にて、里山の生物多様性学習、エネルギー教育、文化財保全教育を行った。（三重県・亀山市・シャープ（株）亀山工場・中部電力（株）の協力）

- ②10月16日は、「アジア・太平洋大学環境コンソーシアム国際環境教育シンポジウム」を三重大学で開催した。

- ③10月17日は、生物多様性エクスカージョンを、海の博物館、鳥羽水族館、ミキモト真珠島で行った。（三重県・鳥羽市の協力）

- ④10月18日は、「アジア・太平洋大学国際環境フォーラム」を、生物多様性交流フェア会場内名古屋学院大学大会場にて開催した。

- ⑤10月11日から29日には、名古屋国際会議場生物多様性交流フェア会場内（白鳥公園）に三重大学ブースを設置し、三重大学のESDプログラムを国内外へ大々的にアピールした。

アジア・太平洋地域から子どもや中高生、大学生の200名が國や文化の差を乗り越えて、生物多様性保全のために取組や様々な活動は、国内外のメディアを通じて世界に紹介された。特に、NHKの生放送や国連関連のメディアの取材、韓国や東南アジア各国のメディアに連日のように取り上げられ、『COP10 in 三重』の成果が高く評価された。

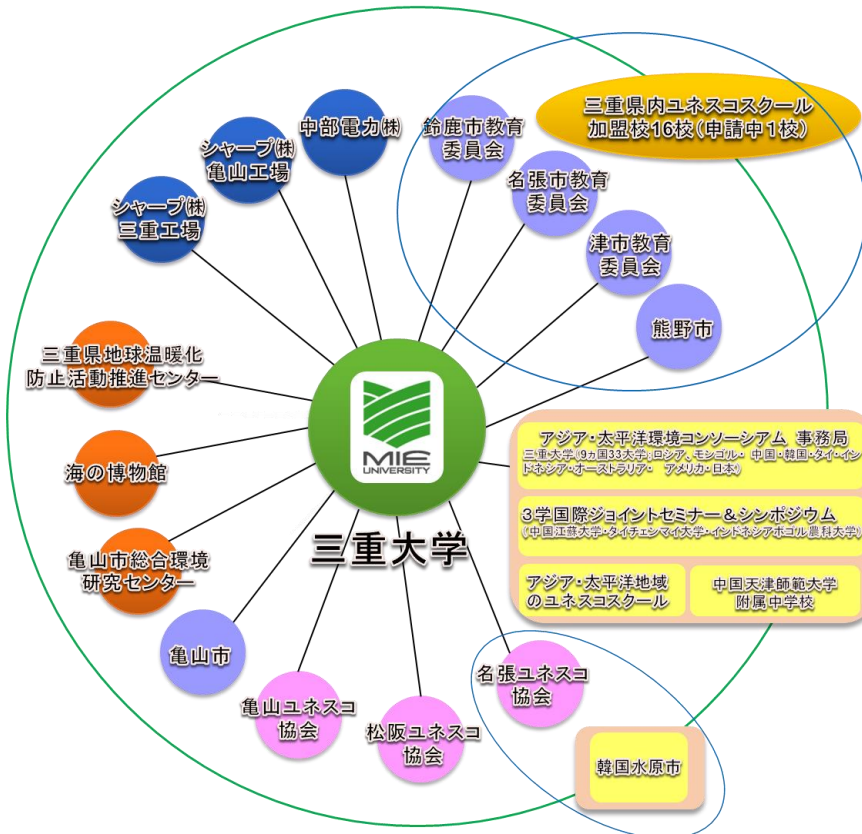
（３）『COP10 in 三重』のファンド

平成20年度から22年度に文部科学省教育GP「三重大ブランドの環境人材養成プログラム」に採択され、3年間に約6,000万円のファンドが得られたことが大きい。さらに、公益財団三重県環境保全事業団（三重県地球温暖化防止活動推進センター）からは、250万円の支援の他に地球温暖化防止活動推進員の協力を得ることができた。

『COP10 in 三重』事業は、教育GPの最終年度の統括として実施されたので、教育GPの事後評価においても高く評価された。成果報告書は和文及び英文（概要版）でまとめられ、文部科学省に提出された。

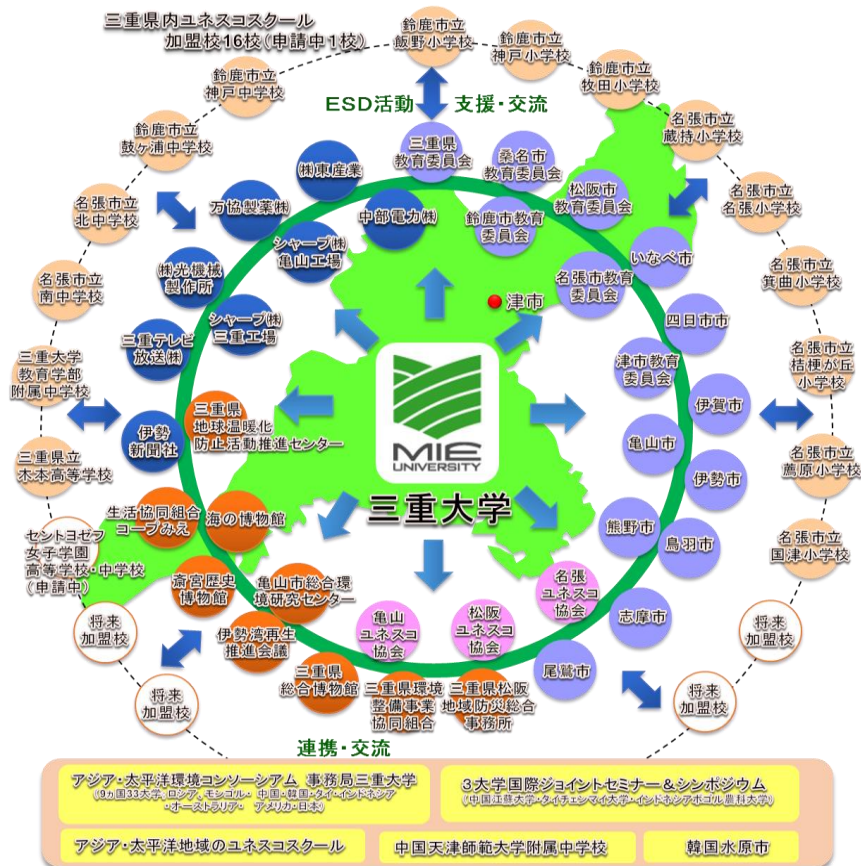
(参考資料)

グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業（現状）



概念図（平成26年3月現在）

グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業（将来イメージ）



概念図（平成29年2月以降）

発行 / 平成27（2015）年3月

国立大学法人 三重大学

問い合わせ先 / 国際環境教育研究センター

〒514-8507 津市栗真町屋町 1577

TEL 059-231-9223・9823

FAX 059-231-9859

E-mail shien@gecer.mie-u.ac.jp

ホームページ <http://www.mie-u.ac.jp/>



国立大学法人 三重大学 国際環境教育研究センター

〒514-8507 津市栗真町屋町1577

☎(059)231-9223・9823

E-Mail : shien@gecer.mie-u.ac.jp